

日本 労働市場チャートブック

2026年6月

Indeed Hiring Lab



日本：労働市場の概観

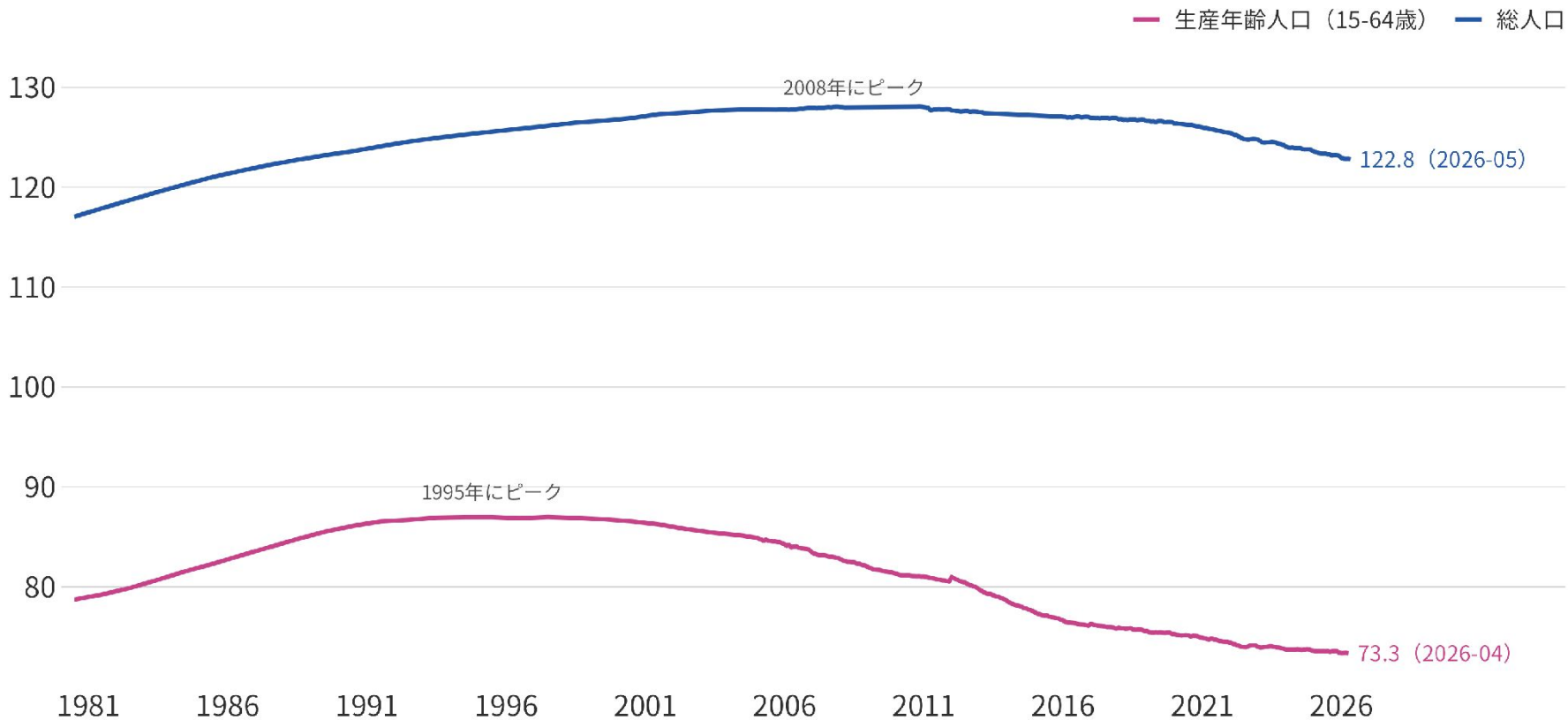
- 労働参加率は上昇を続け、労働市場は引き続き逼迫している。
- 失業率はわずかに上昇している。
- 追加的な労働供給（女性の正規雇用の増加、65歳以上の就労継続、外国人労働者の流入）は着実に拡大している。
- 名目賃金の伸びは歴史的に高い水準を維持しており、生産性の向上は賃金に十分には波及していない。
- 資本面では、ソフトウェア投資が歴史的な高ペースで増加している。
- リスク（高止まりする政策不確実性、高い原油価格、急上昇した長期借入コスト）が先行きの重石となっている。

01

労働力と需給逆転

日本の総人口は2008年、生産年齢人口は1995年から減少

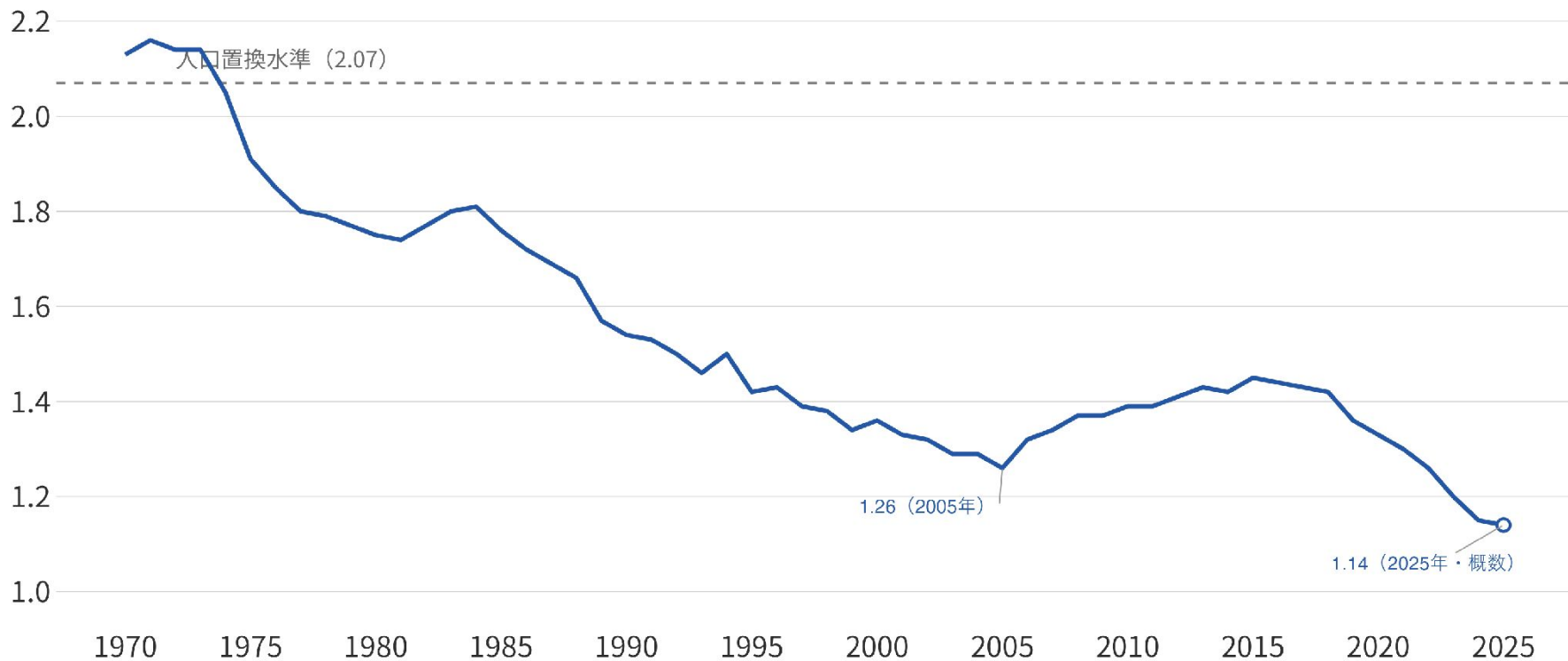
総人口と生産年齢人口（15-64歳）。2005年より前は年次、以降は月次（直近2026-05）、単位：百万人



出所：総務省統計局 人口推計（月次）、労働力調査

日本の合計特殊出生率（TFR）

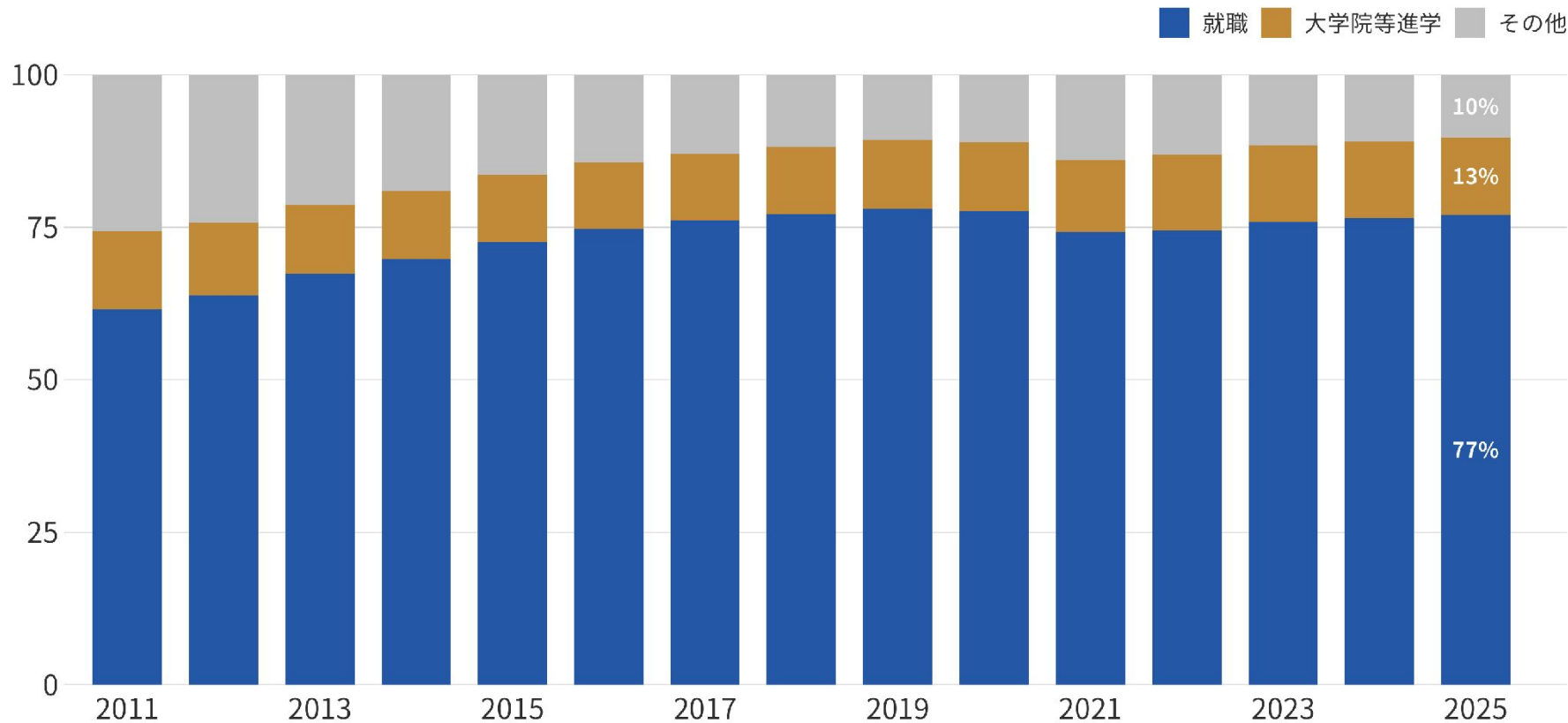
人口動態統計。1975年に人口置換水準を下回り、2025年に過去最低の1.14（概数、白丸）



出所：厚生労働省 人口動態統計

大卒の多くは就職、約8人に1人が大学院等へ進学

大学（学部）卒業者の進路構成比：就職／大学院等進学／その他、学校基本調査、年次

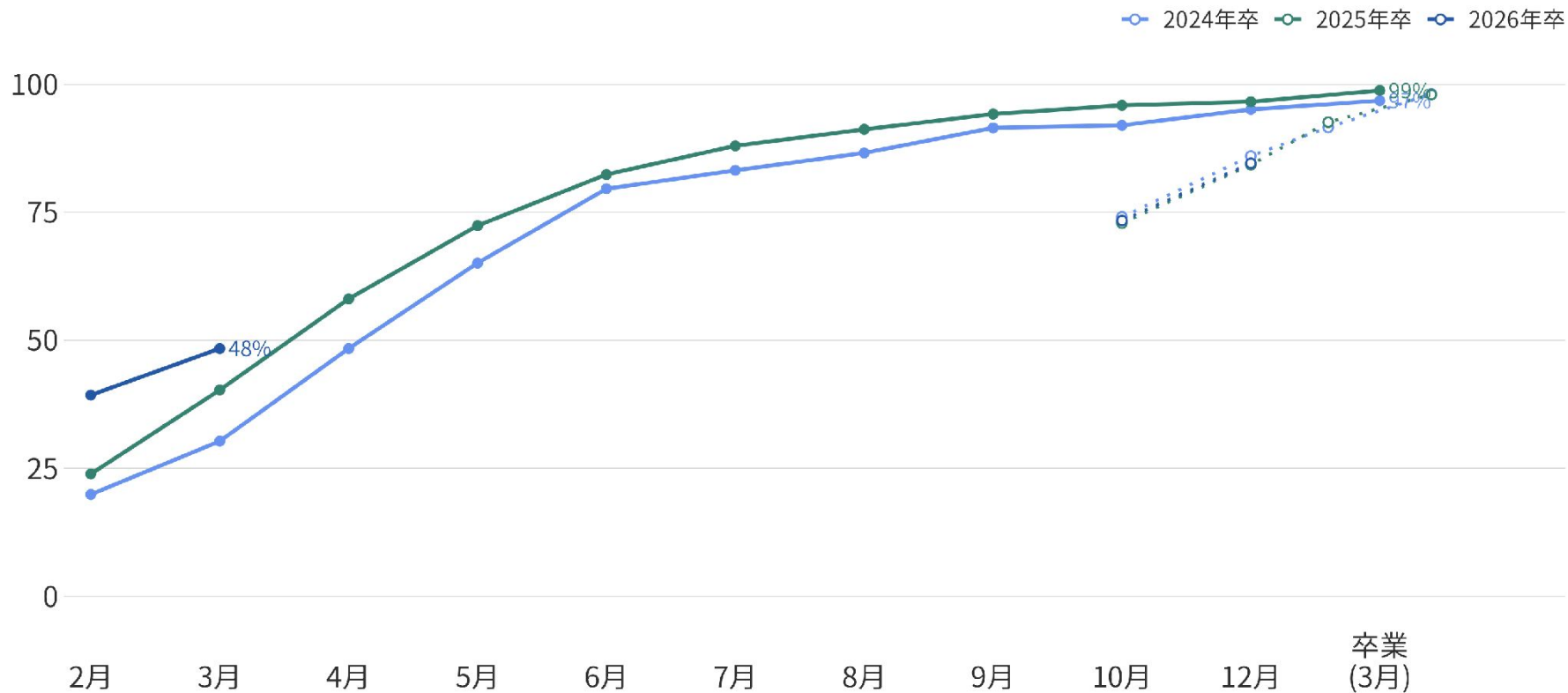


出所：文部科学省 学校基本調査（大学・学部）、卒業者に占める進路別割合

新卒内定率は前年を上回るペースで上昇＝売り手市場の継続

大学生の内定率、就職活動の各月

実線＝リクルート 就職プロセス調査（就職志望者）、点線＝厚労省・文科省 公式調査（10/1・12/1・2/1・4/1）

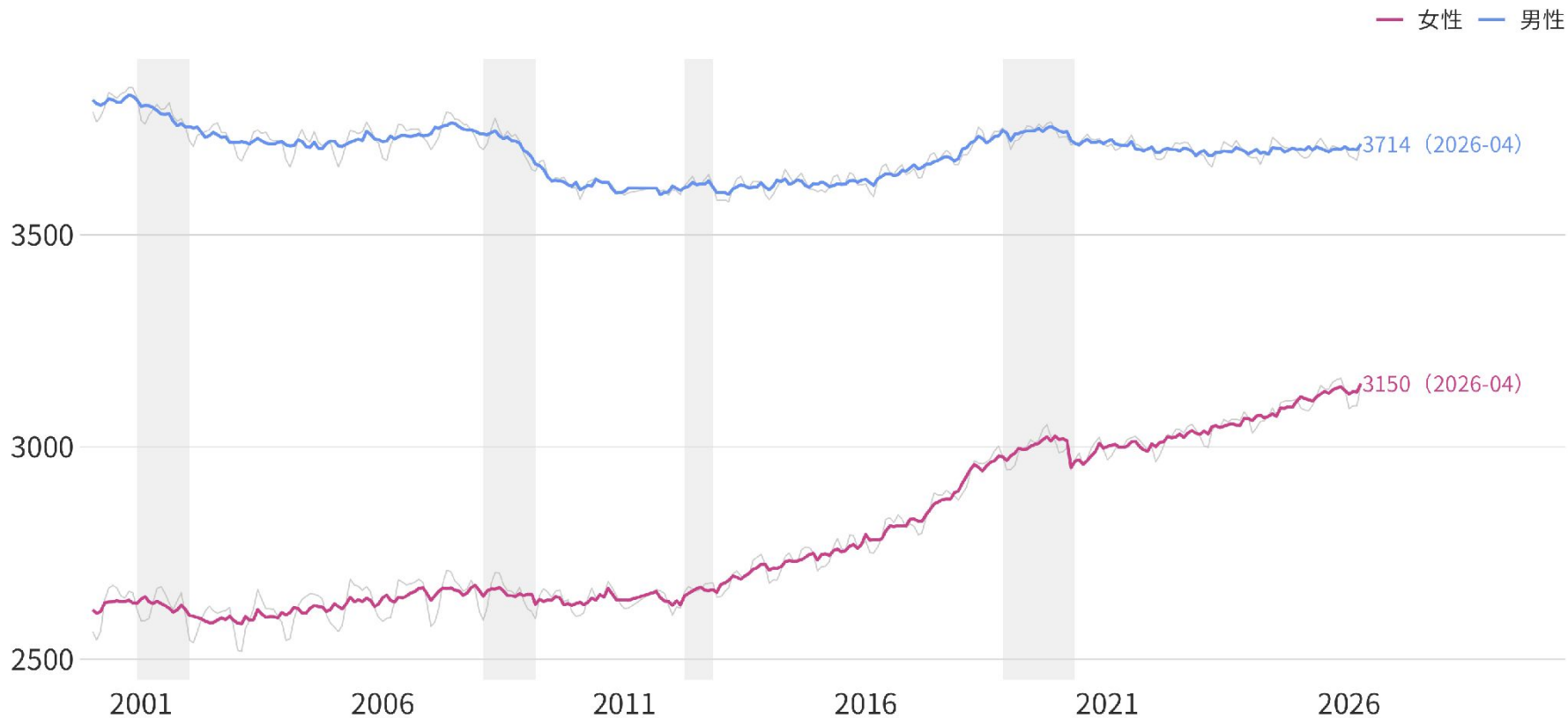


出所：リクルート 就職みらい研究所「就職プロセス調査」（実線）、厚労省・文科省「就職内定状況調査」（点線）



性別就業者数

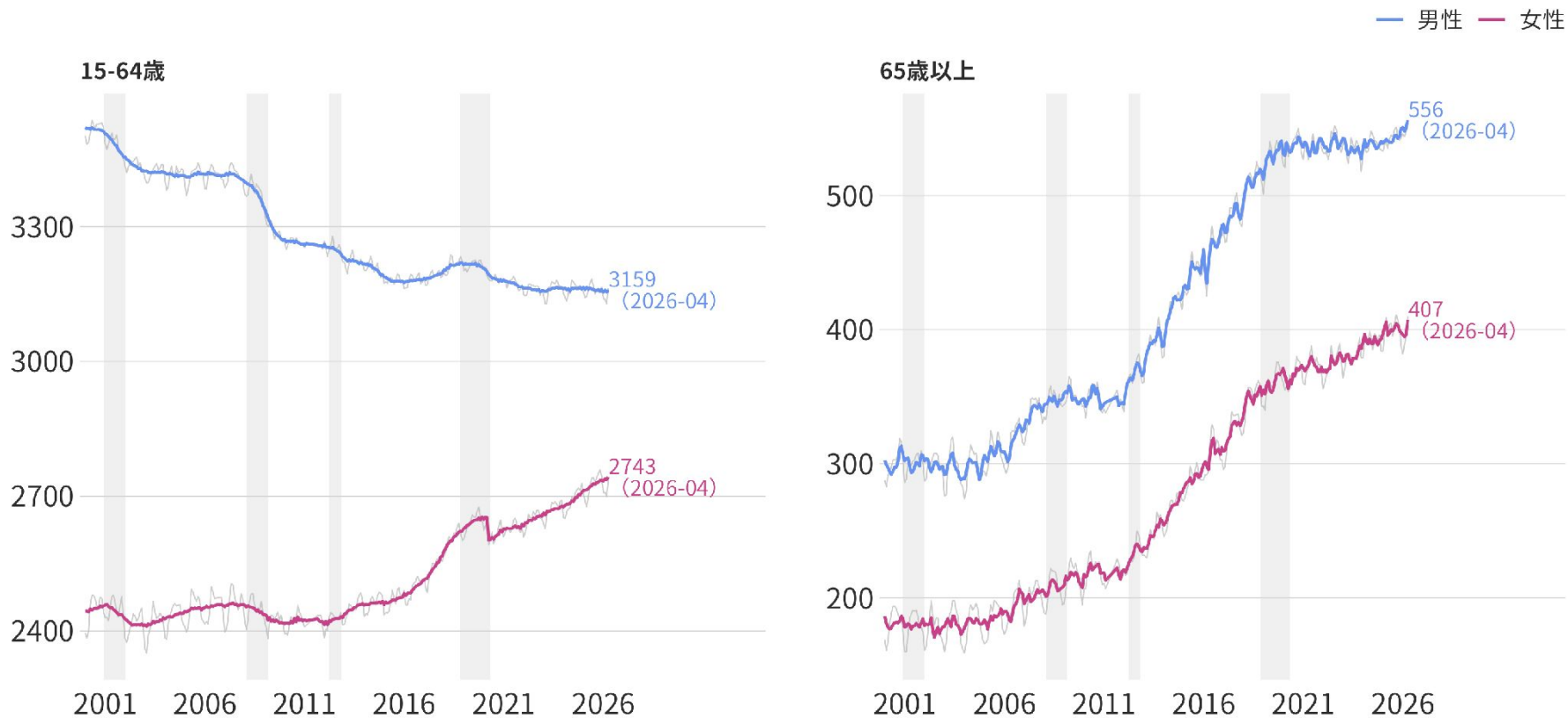
女性就業者の増加が男性の減少を補ってきた（季節調整値）。薄い灰色＝原数値 | 単位：万人



出所：総務省 労働力調査（季節調整は筆者）

性別・年齢階級別 就業者数 (15-64歳 / 65歳以上)

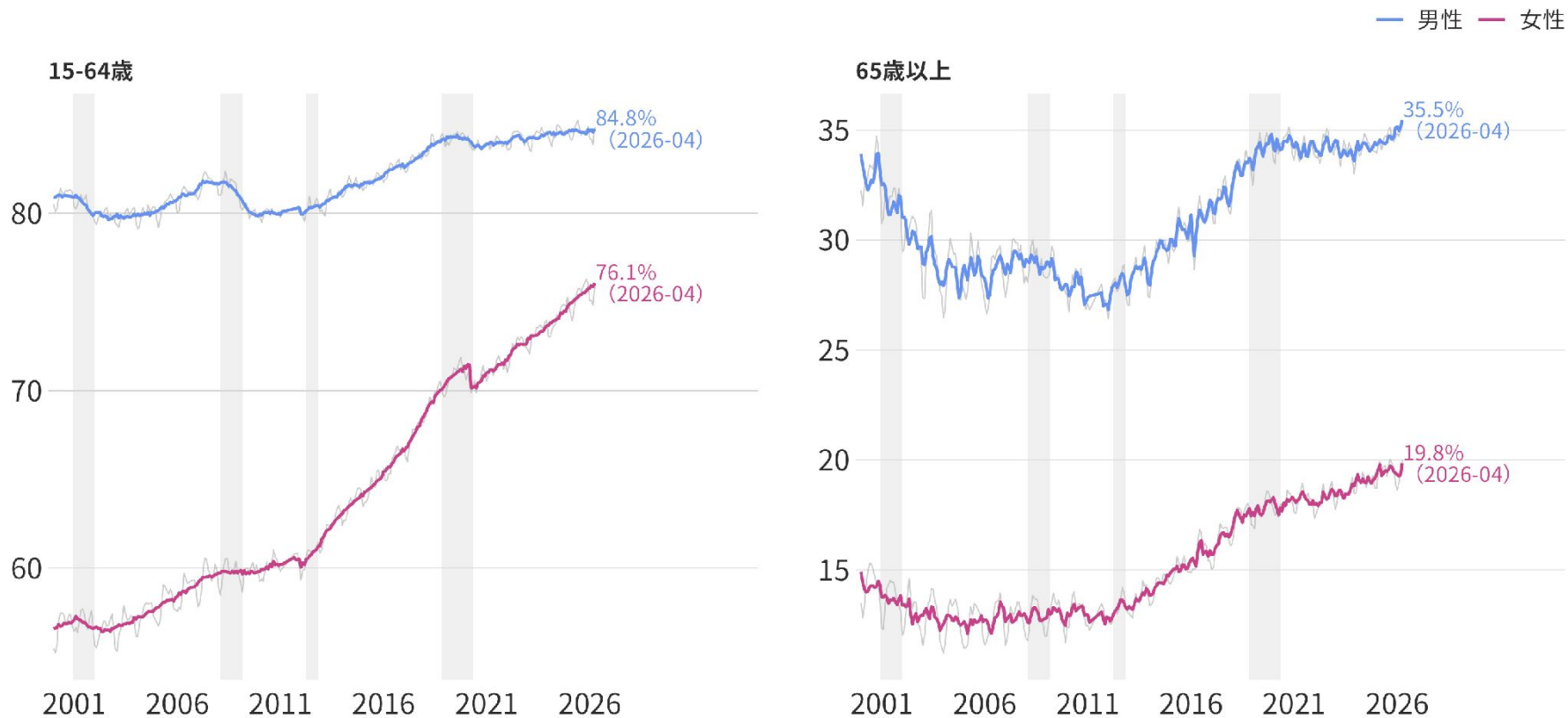
季節調整値 (X-13)。薄い灰色=原数値。単位：万人



出所：総務省 労働力調査 (季節調整は筆者)

性別・年齢階級別 就業率 (15-64歳 / 65歳以上)

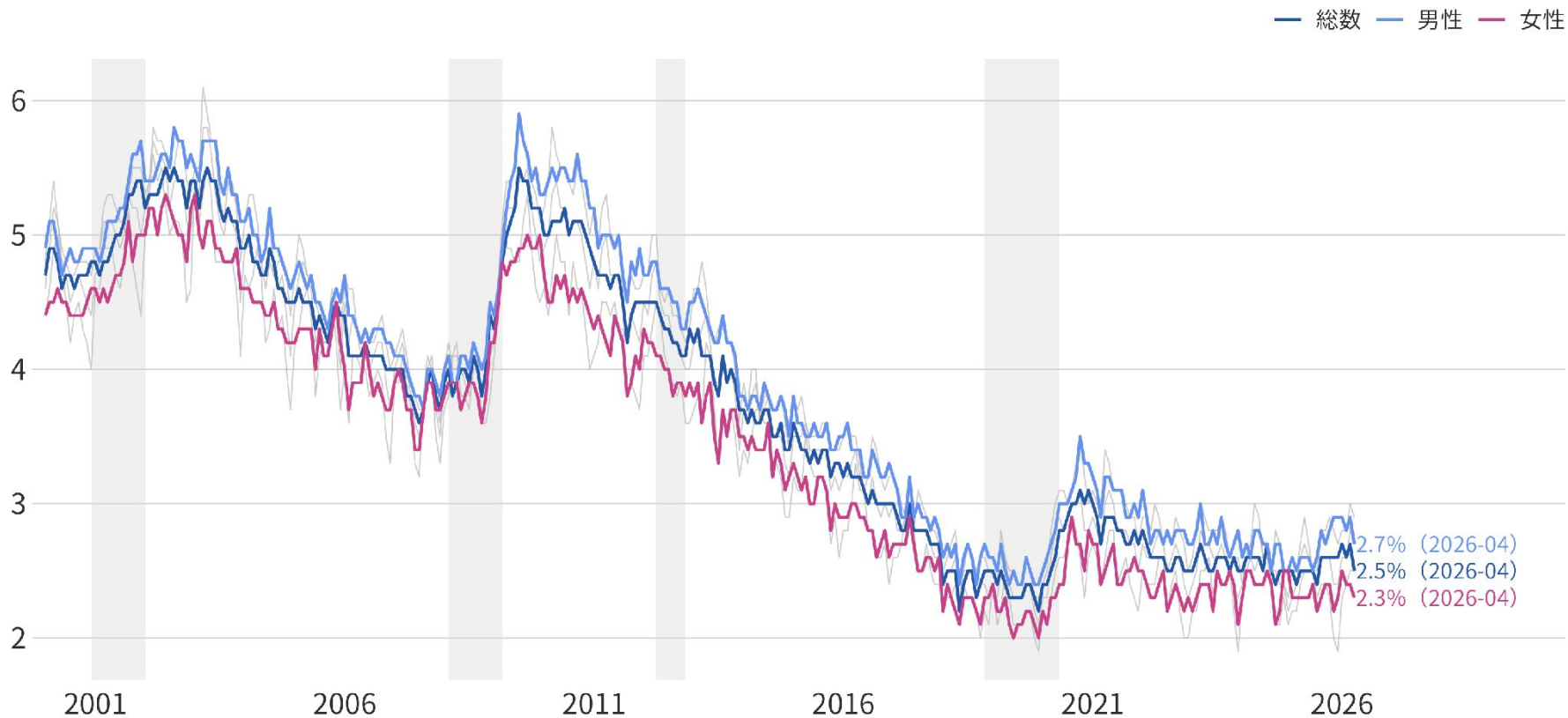
就業者/人口、季節調整値 (X-13)。薄い灰色=原数値



出所：総務省 労働力調査 (季節調整は筆者)

性別 完全失業率

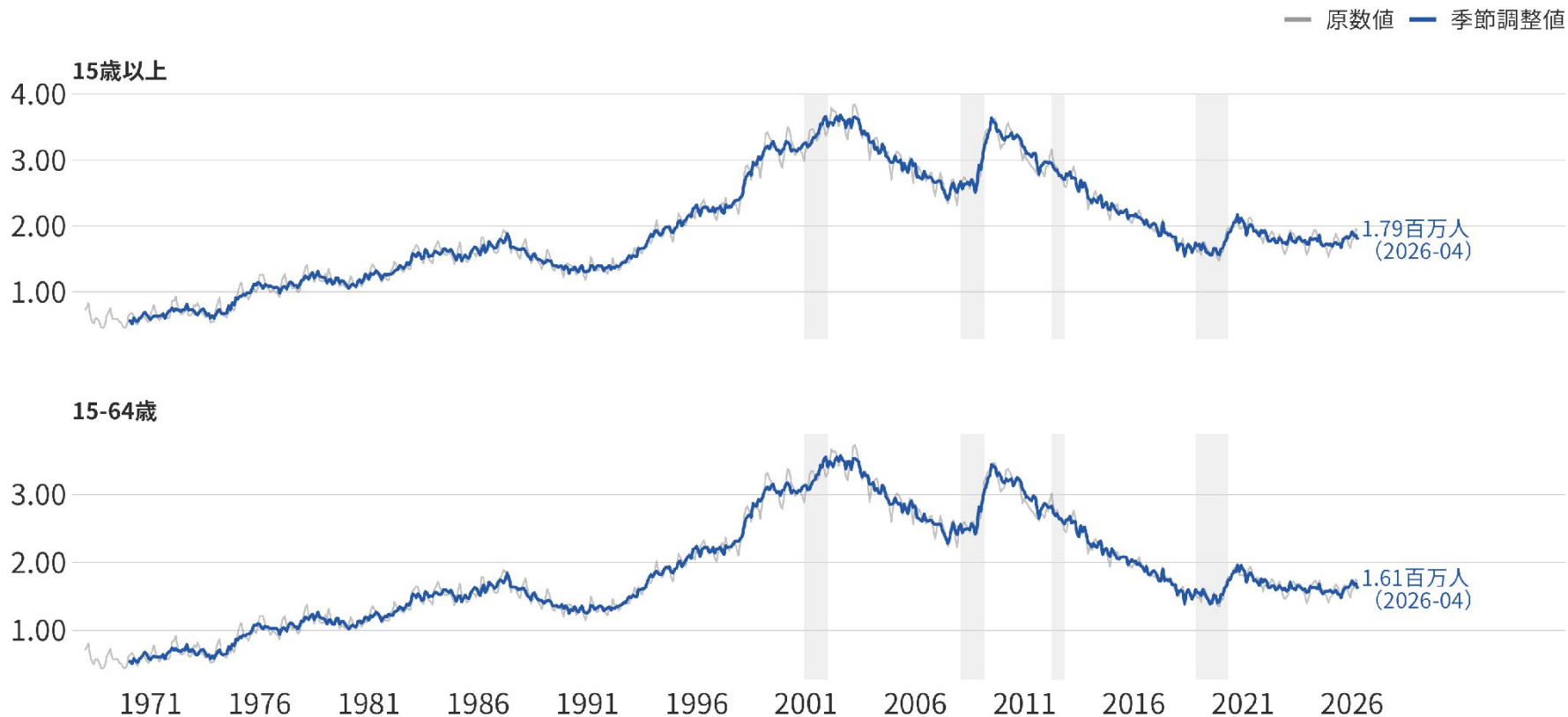
月次、公式の季節調整値（総務省）。薄い灰色＝原数値



出所：総務省 労働力調査（公式の季節調整値）

完全失業者数（月次）

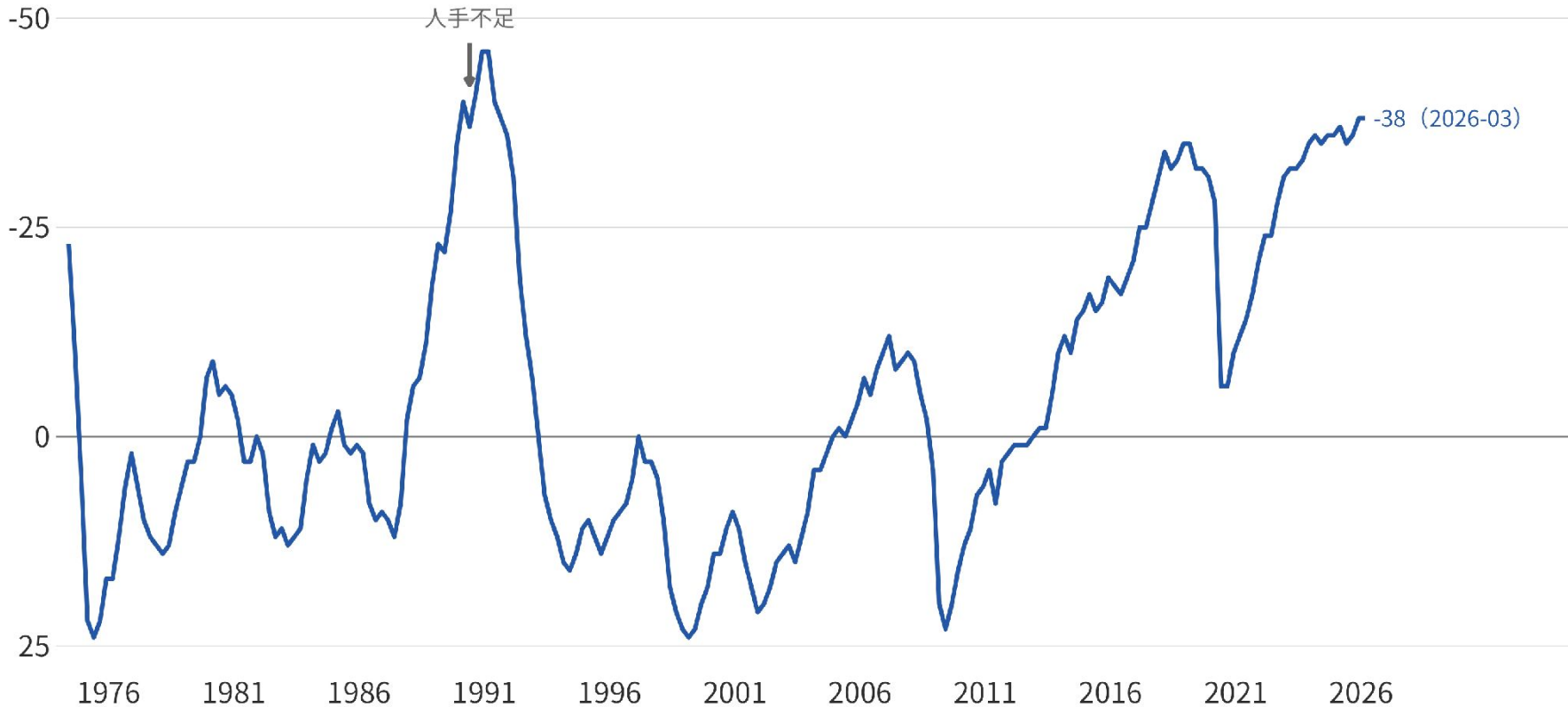
失業者ストック（労働力ー就業者）、百万人。季調値はLFS長期時系列1-a-6（1970年～）



出所：労働力調査、季節調整は筆者

日本の労働需給の逼迫

日銀短観 雇用人員判断DI（全産業）。2003年12月に調査見直しによる断層



出所：日本銀行 全国企業短期経済観測調査（短観）

労働市場のフロー（入職・離職確率、季節調整値）

入職確率F=失業者が四半期内に就業へ移る割合、離職確率S=就業→失業の流入率（Shimer 2012）

薄い灰色=原数値

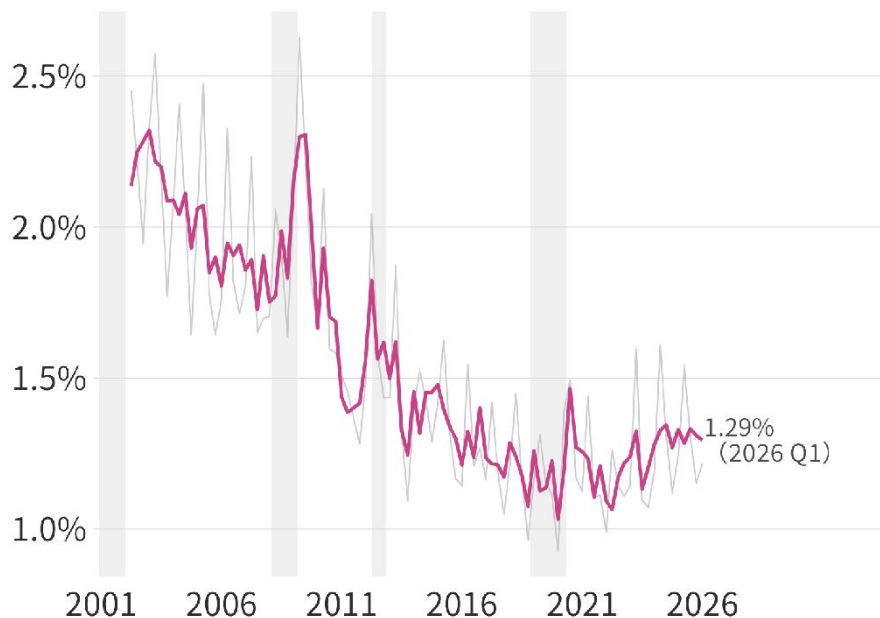
入職確率（F）

失業→就業（1四半期後）。四半期、季節調整値



離職確率（S）

就業→失業（1四半期後）。四半期、季節調整値

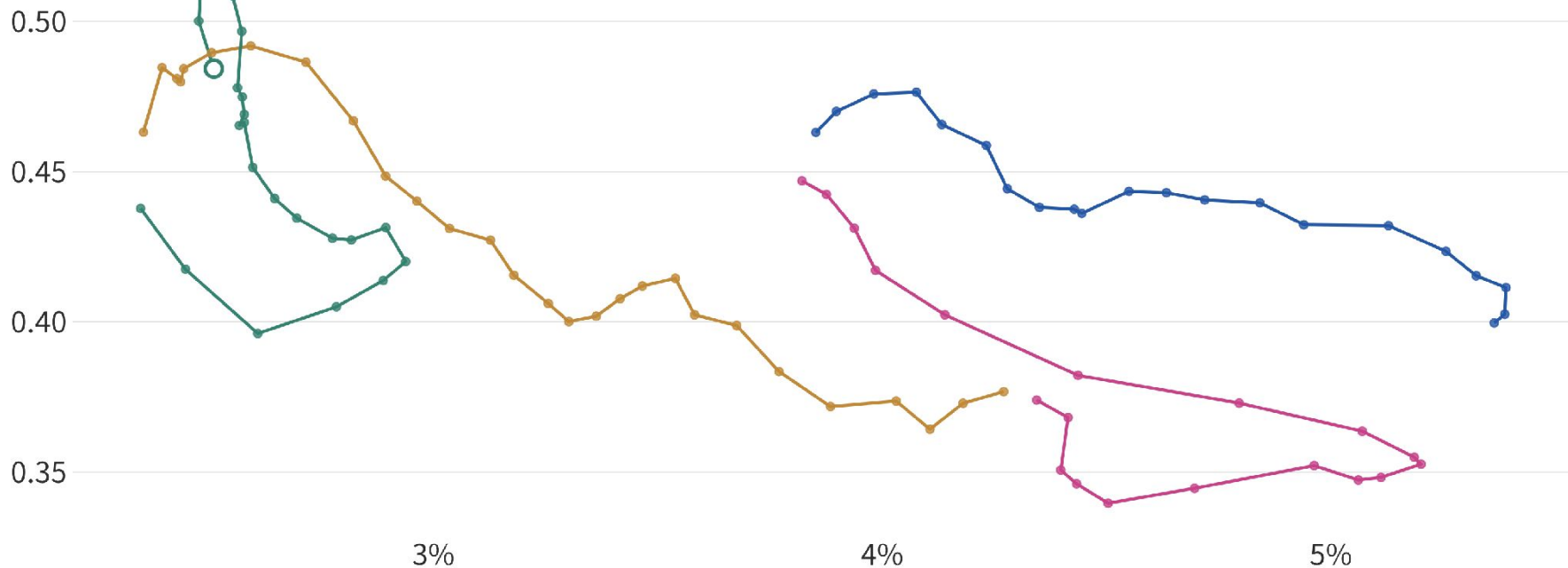


失業率と入職率（季節調整値）

入職率 f =失業者が就業へ移る連続時間レート（ $-\log(1-F)$ ）、期間別の4四半期移動平均
各線は1つの局面。逼迫時ほど左上（失業率が低く、 f が高い）へ動く

—●— 2002-2007 —●— 2008-2012（世界金融危機後） —●— 2013-2019（アベノミクス/QQE） —●— 2020年～（コロナ後）

最新 2025 Q4：失業率 2.5%、 f 0.484



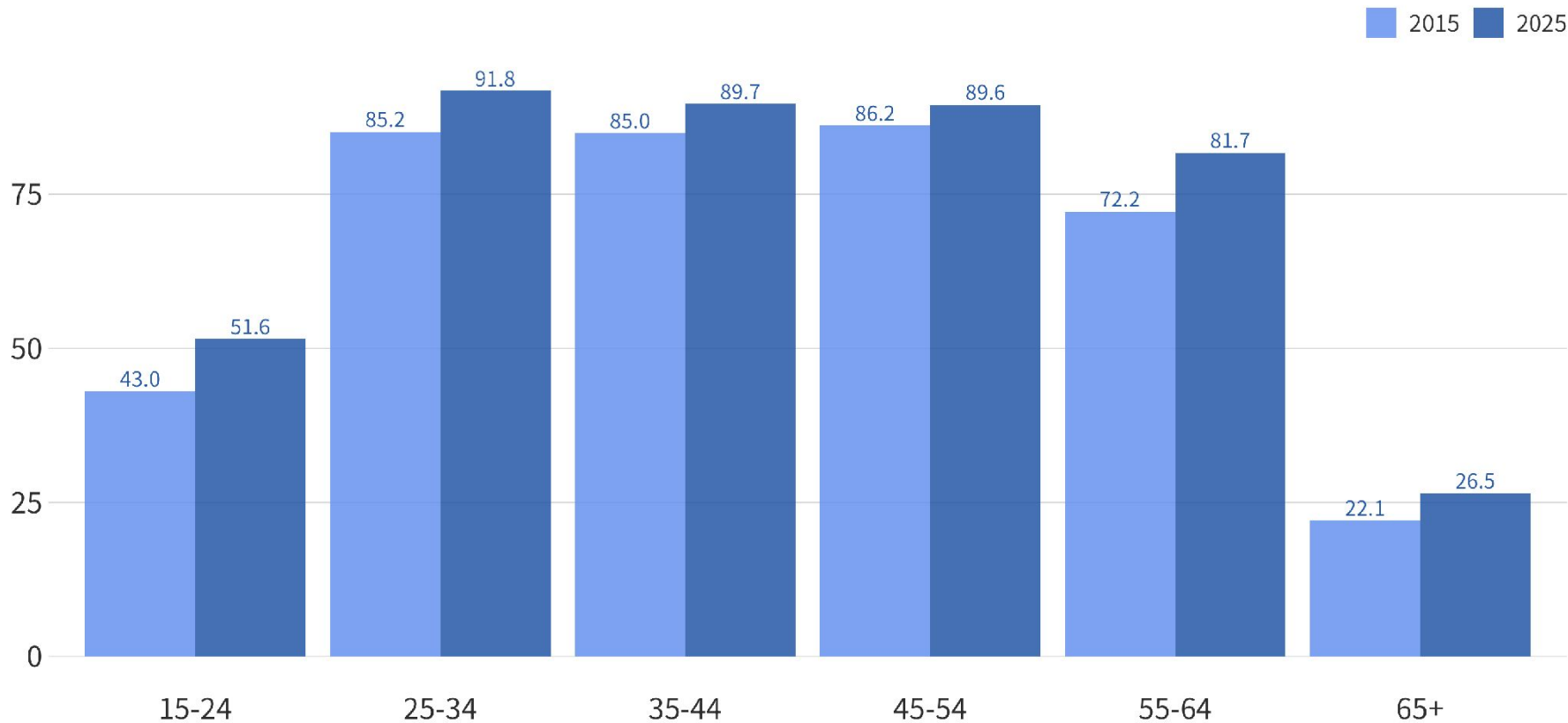
出所：総務省 労働力調査、Shimer (2012) の手法による筆者推計

02

追加的な労働供給：高齢者・女性・外国人

労働参加率はすべての年齢層で上昇（特に55歳以上）

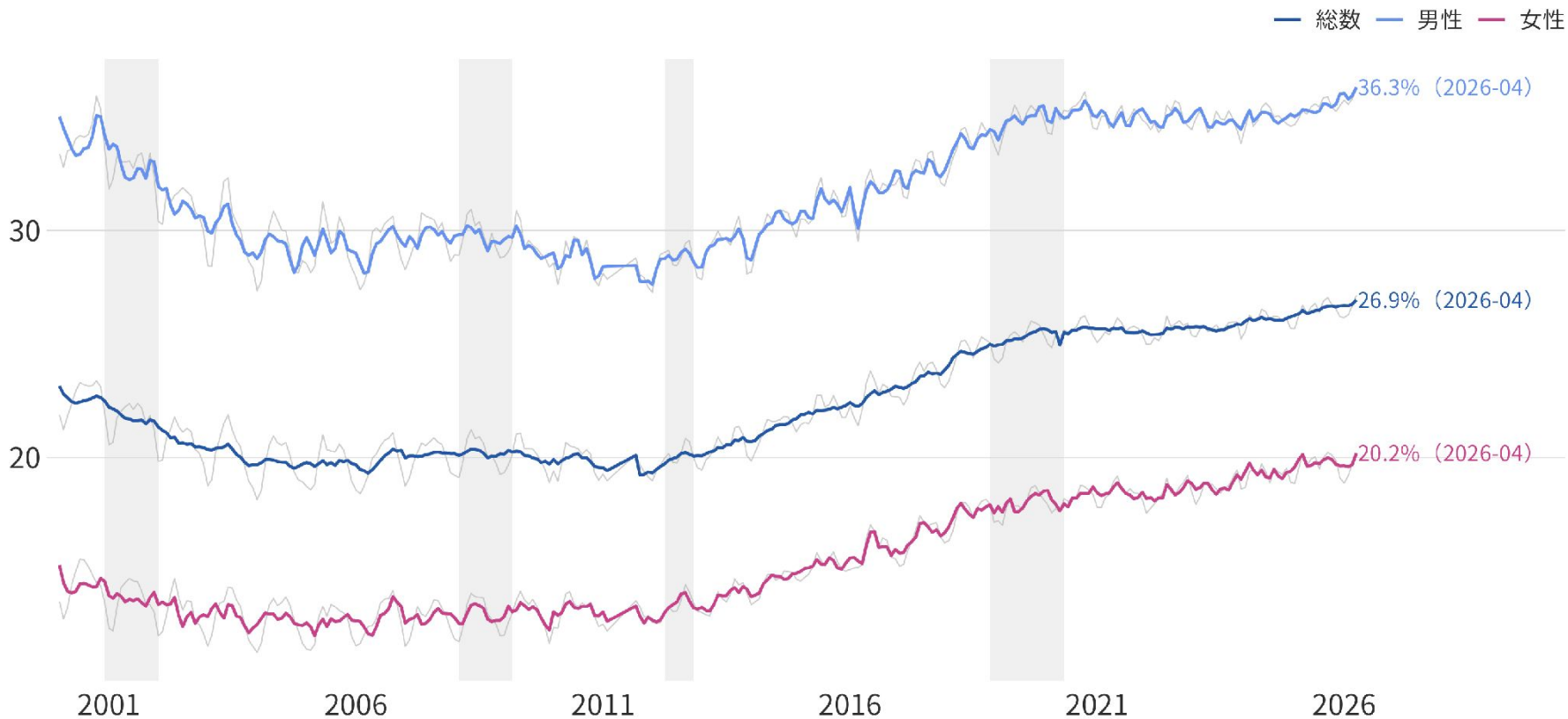
性別計の労働力率、年平均、年齢階級別、2015年 vs 2025年



出所：総務省 労働力調査

高齢者（65歳以上）の労働力率

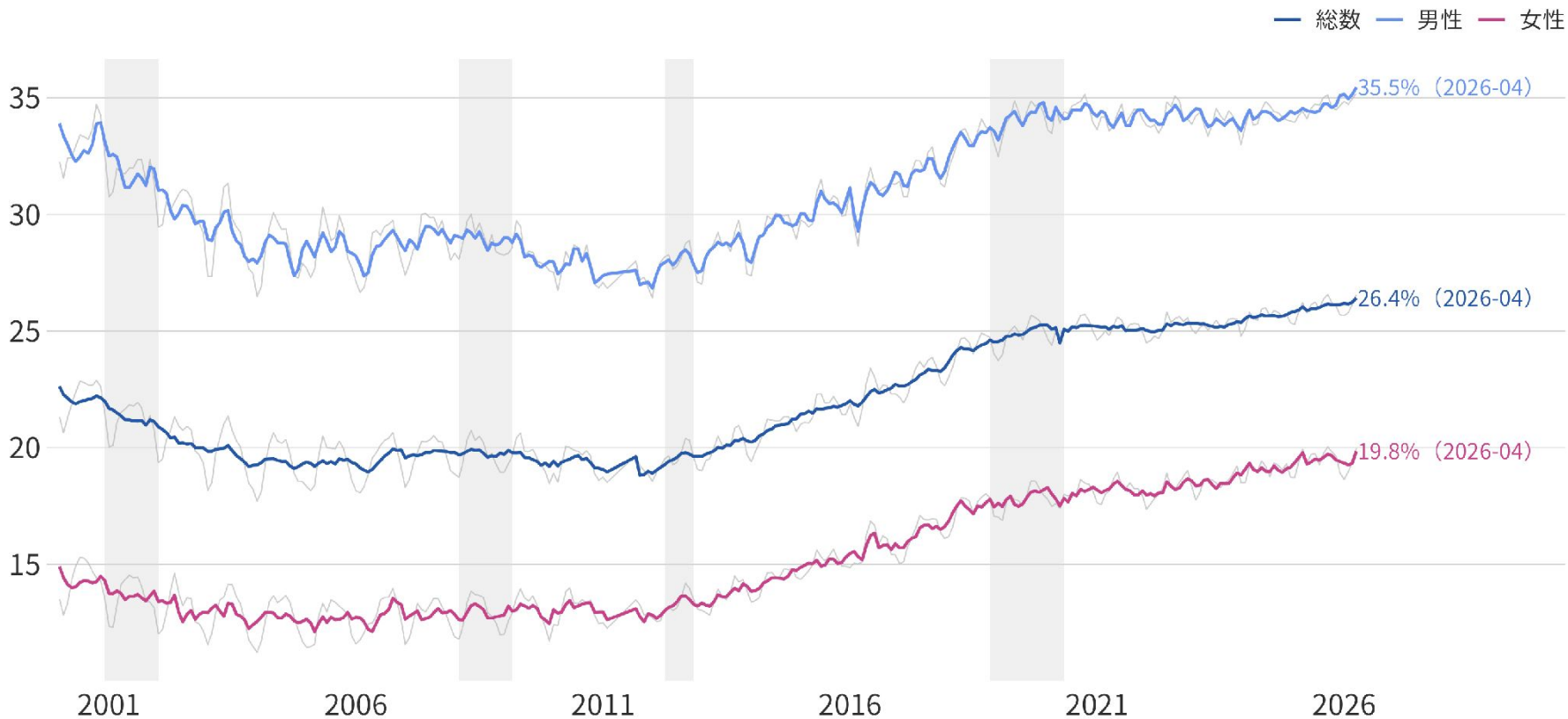
季節調整値（X-13）。薄い灰色＝原数値



出所：総務省 労働力調査（季節調整は筆者）

高齢者（65歳以上）の就業率

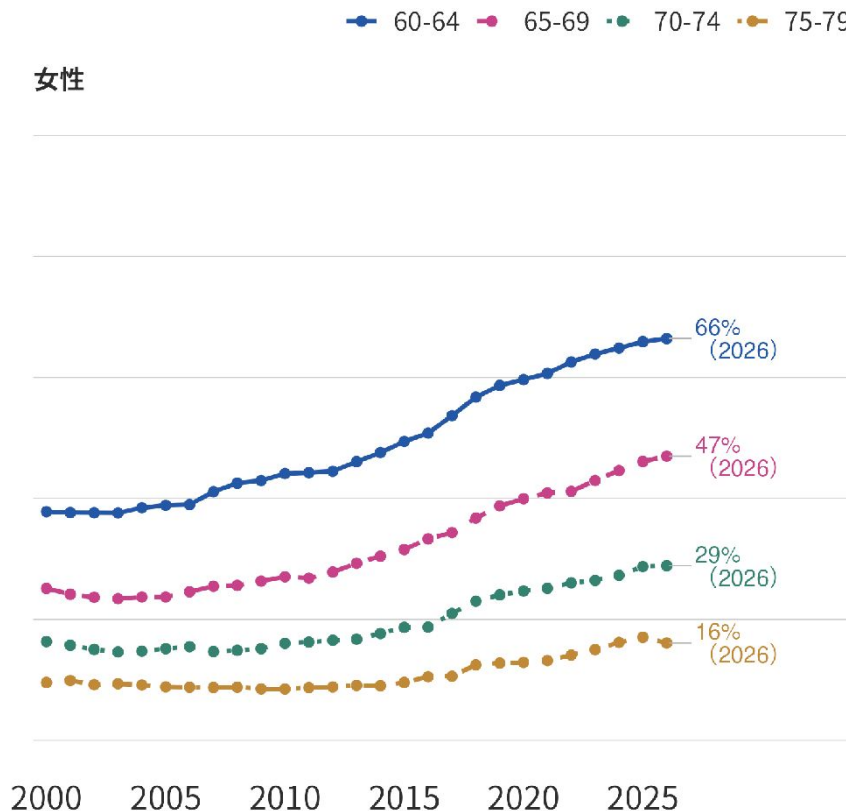
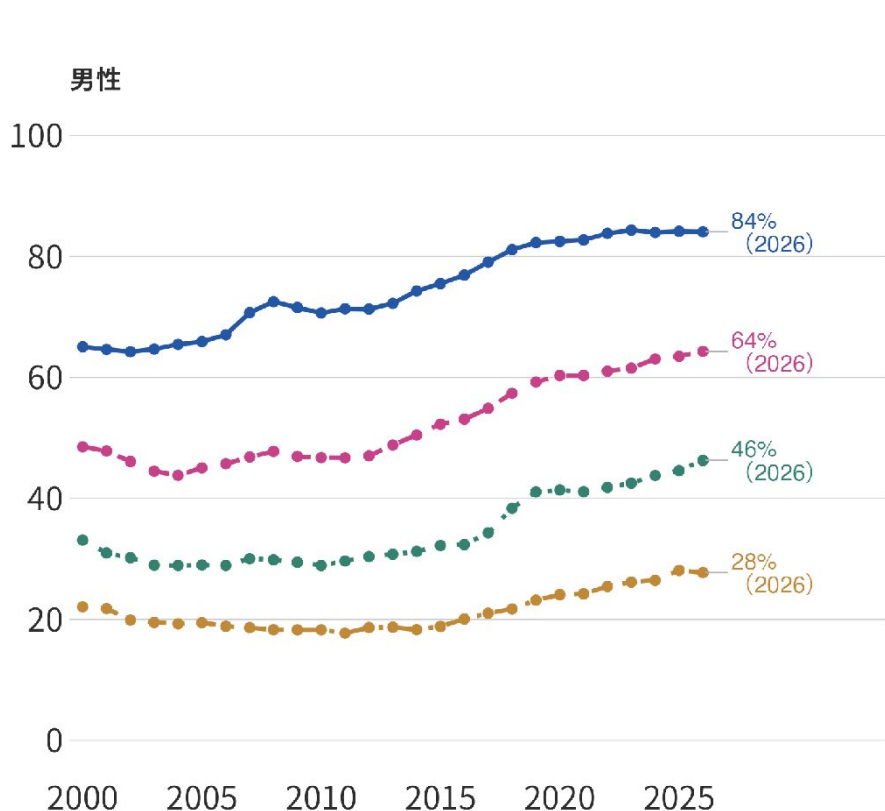
季節調整値（X-13）。薄い灰色＝原数値。高齢者の失業は少なく労働力率とほぼ連動



出所：総務省 労働力調査（季節調整は筆者）

高齢者の就業率は男女とも大きく上昇

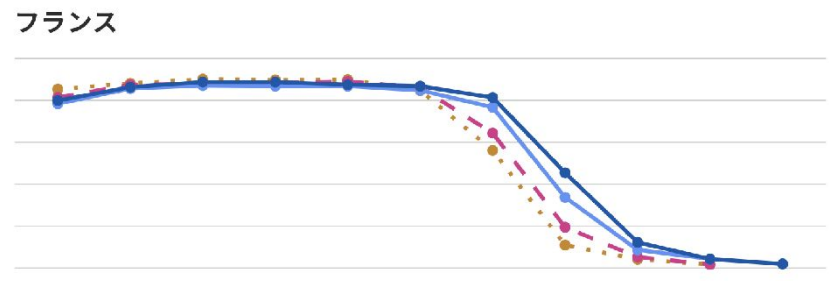
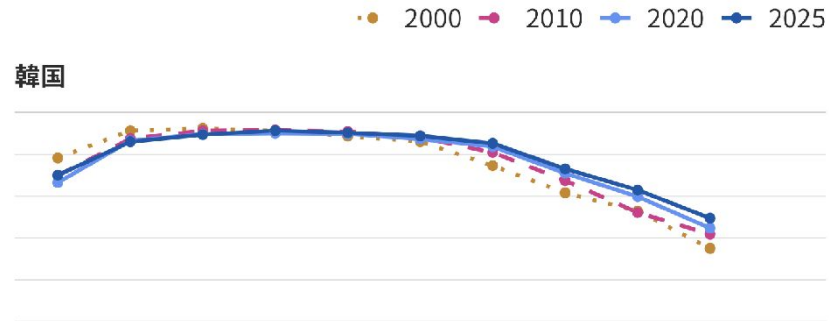
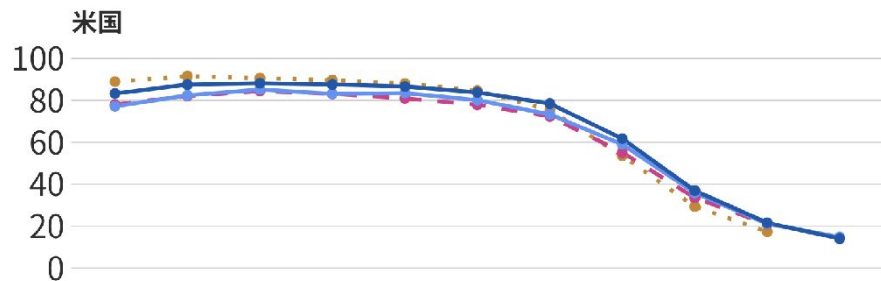
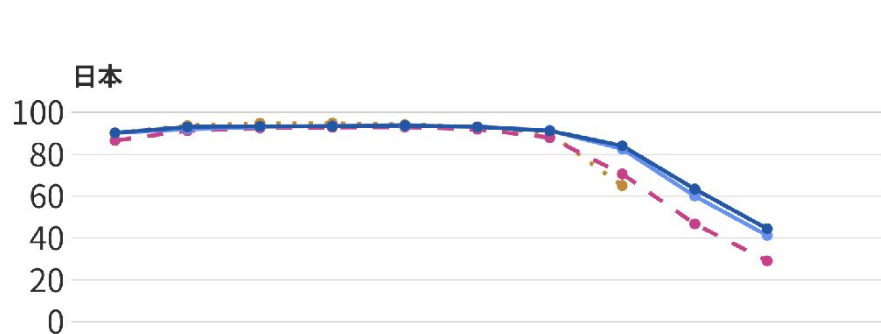
5歳階級別の就業率、年平均、男女別。男性60-64歳は約65%（2000年）から85%超へ



出所：総務省 労働力調査。2026年は1～4月（直近）の平均

60歳以上の就業率は各国で上昇、日本と韓国が最も高い

男性の年齢階級別就業率、各国・各年。日本・韓国・米国・フランス

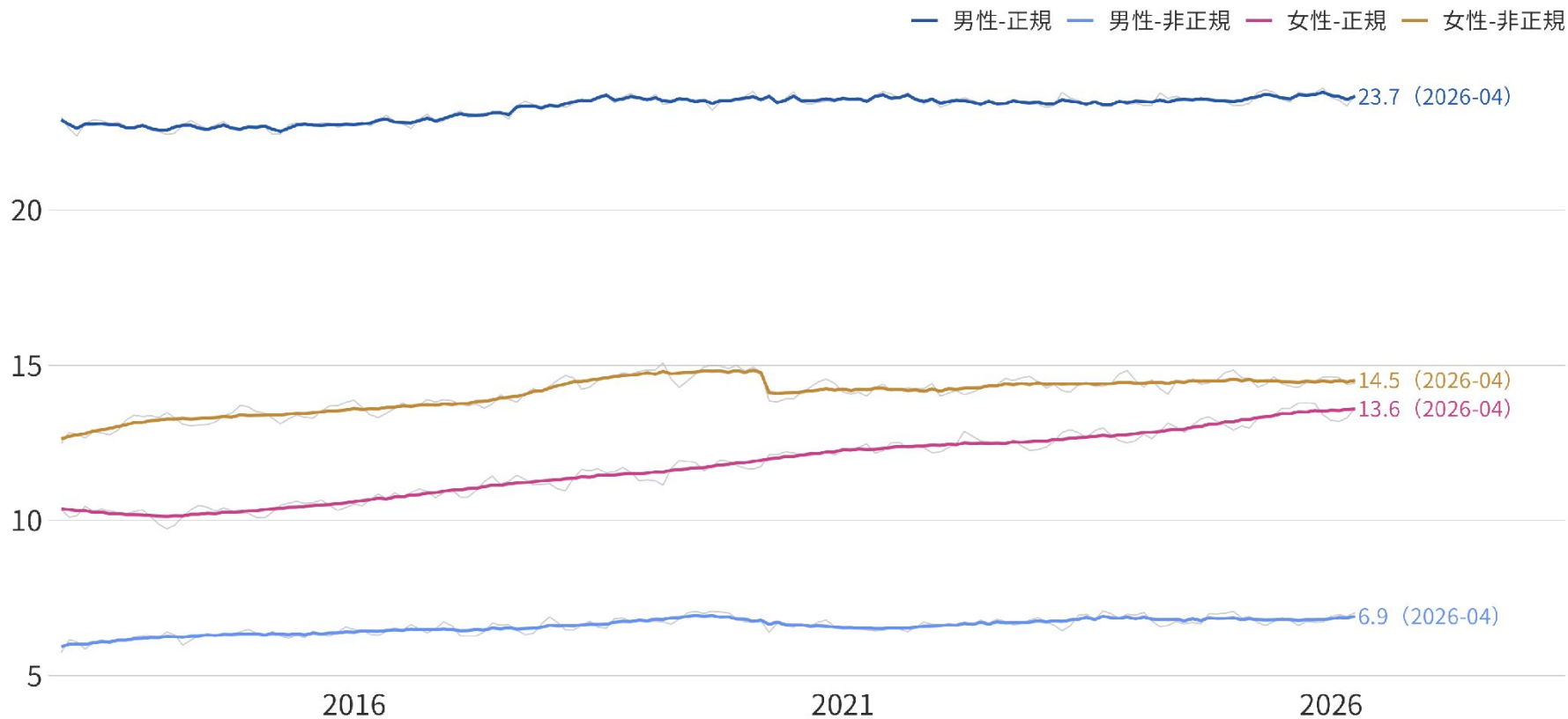


出所：OECD労働力統計（SDMX API）



女性は約5割が非正規、男性は約2割

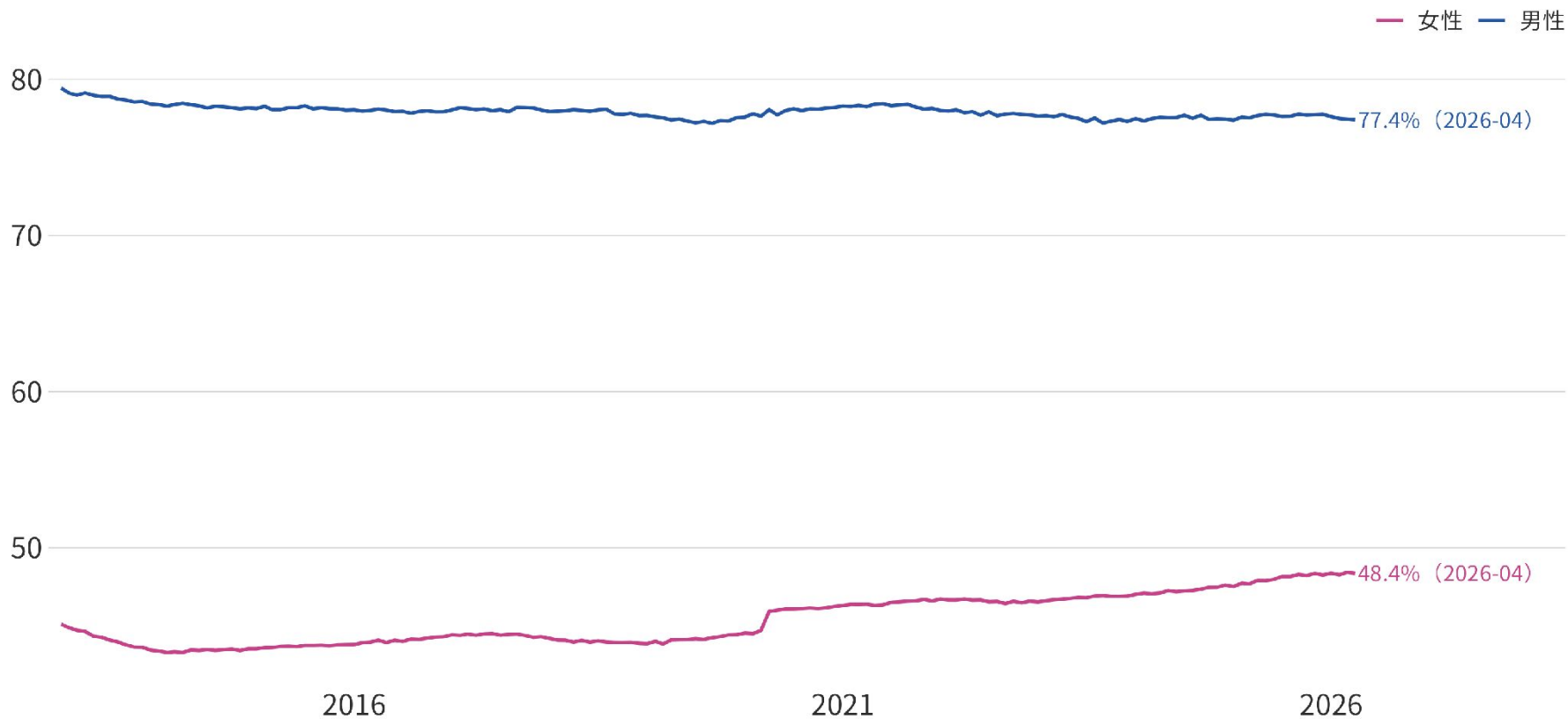
性別・雇用形態別の雇用者数、季節調整値。薄い灰色＝原数値。月次、単位：百万人



出所：総務省 労働力調査（季節調整は筆者）

女性の正社員比率は緩やかに上昇

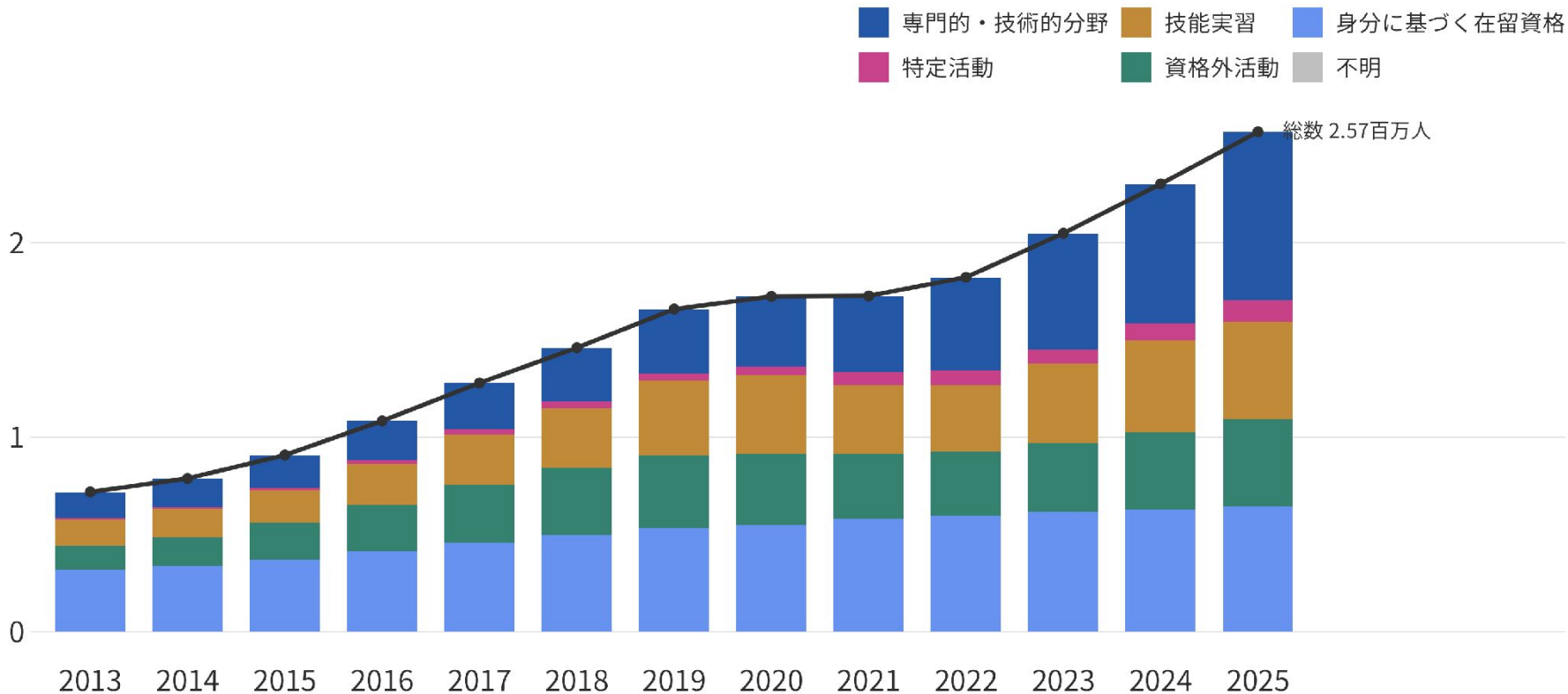
雇用者に占める正規雇用の割合（正規/(正規+非正規)）、性別、季節調整値、月次



出所：総務省 労働力調査（季節調整は筆者）

外国人労働者は2013年から3倍、いまや専門的・技術的分野が最多

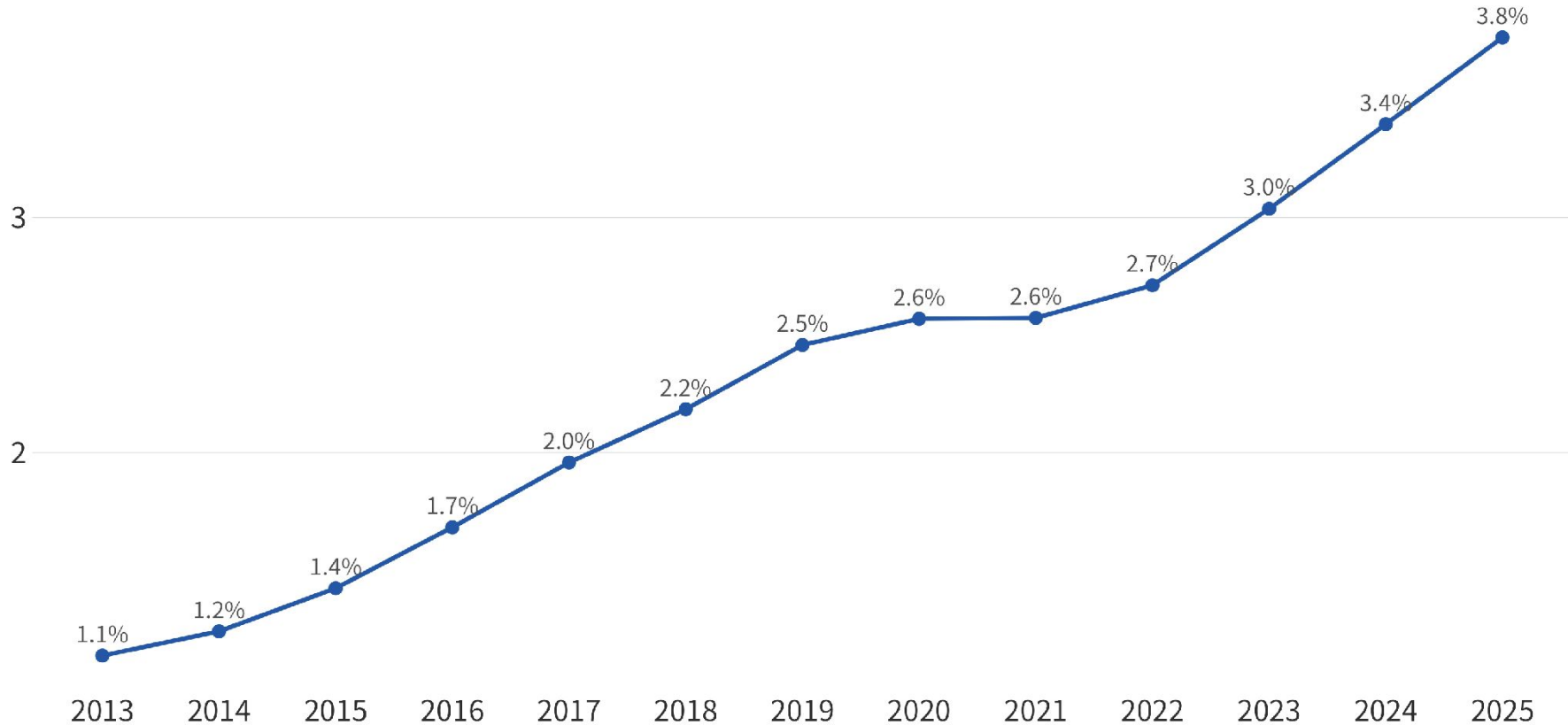
在日外国人労働者：在留資格別内訳（積み上げ棒）と総数（線）
各年10月末時点、2013-2025、単位：百万人



出所：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況」

全就業者に占める外国人労働者の割合

外国人労働者 / 就業者 (年平均)



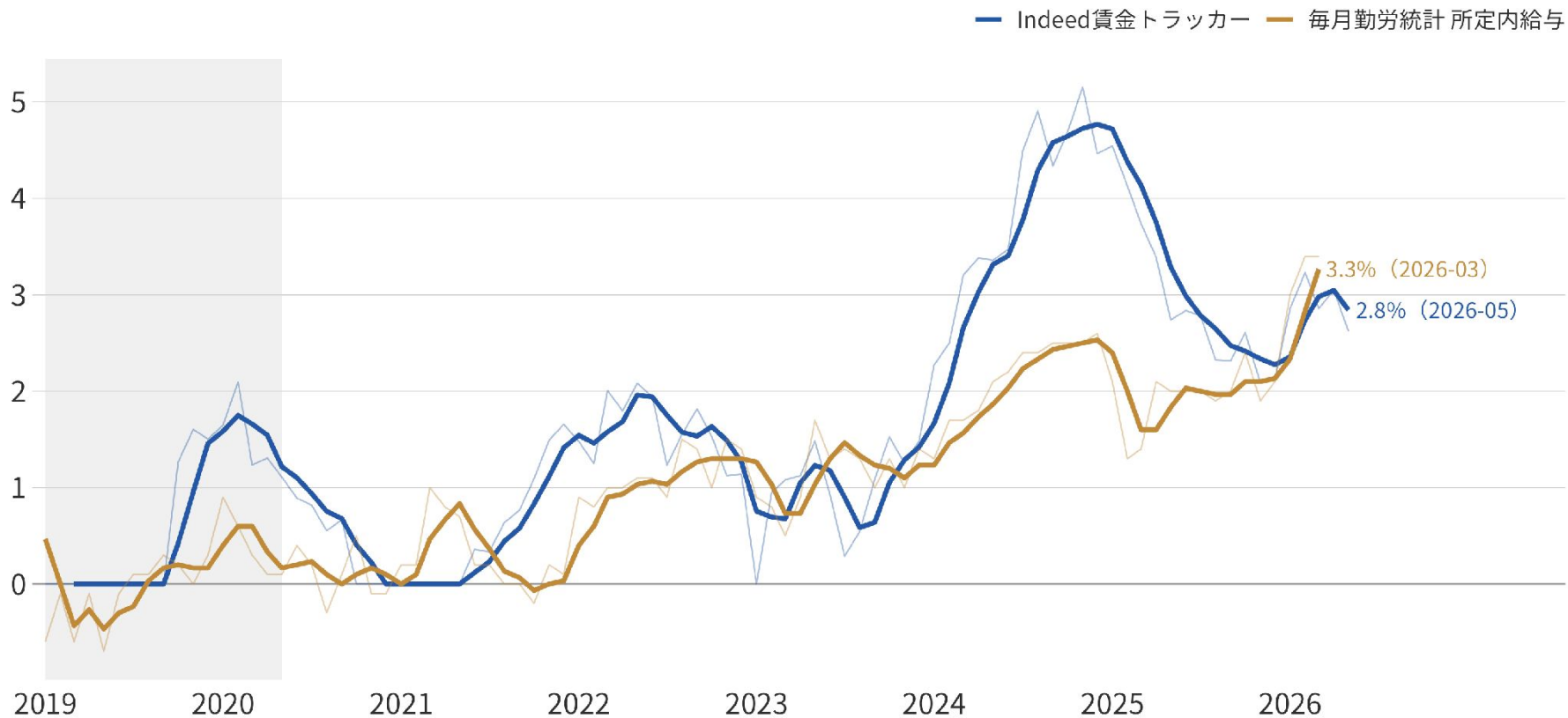
出所：厚生労働省、労働力調査（筆者計算）

03

賃金と物価

賃金上昇率：Indeed賃金トラッカー vs 毎月勤労統計

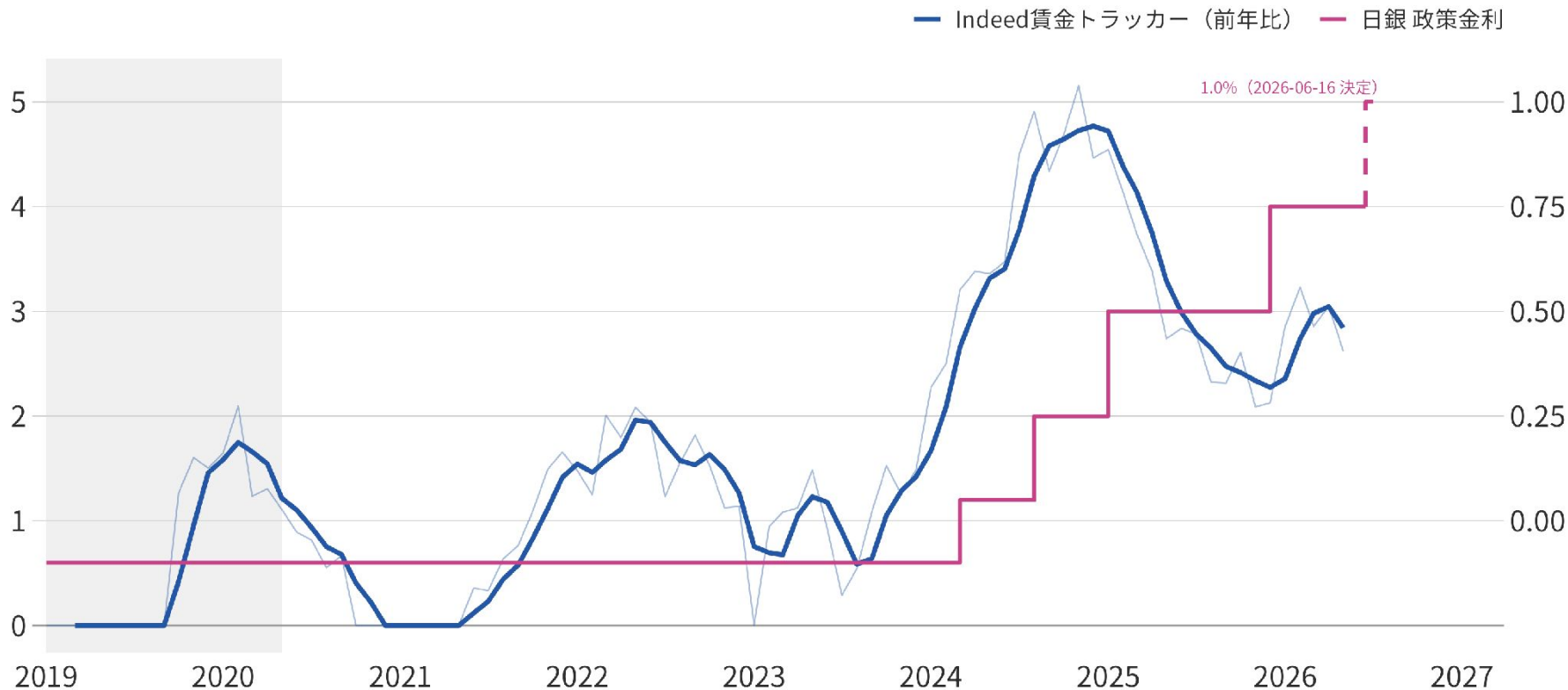
前年同月比（％）。細線＝単月、太線＝3か月移動平均



出所：Indeed 賃金トラッカー、厚生労働省 毎月勤労統計調査（所定内給与）

賃金上昇が日銀の利上げを後押し

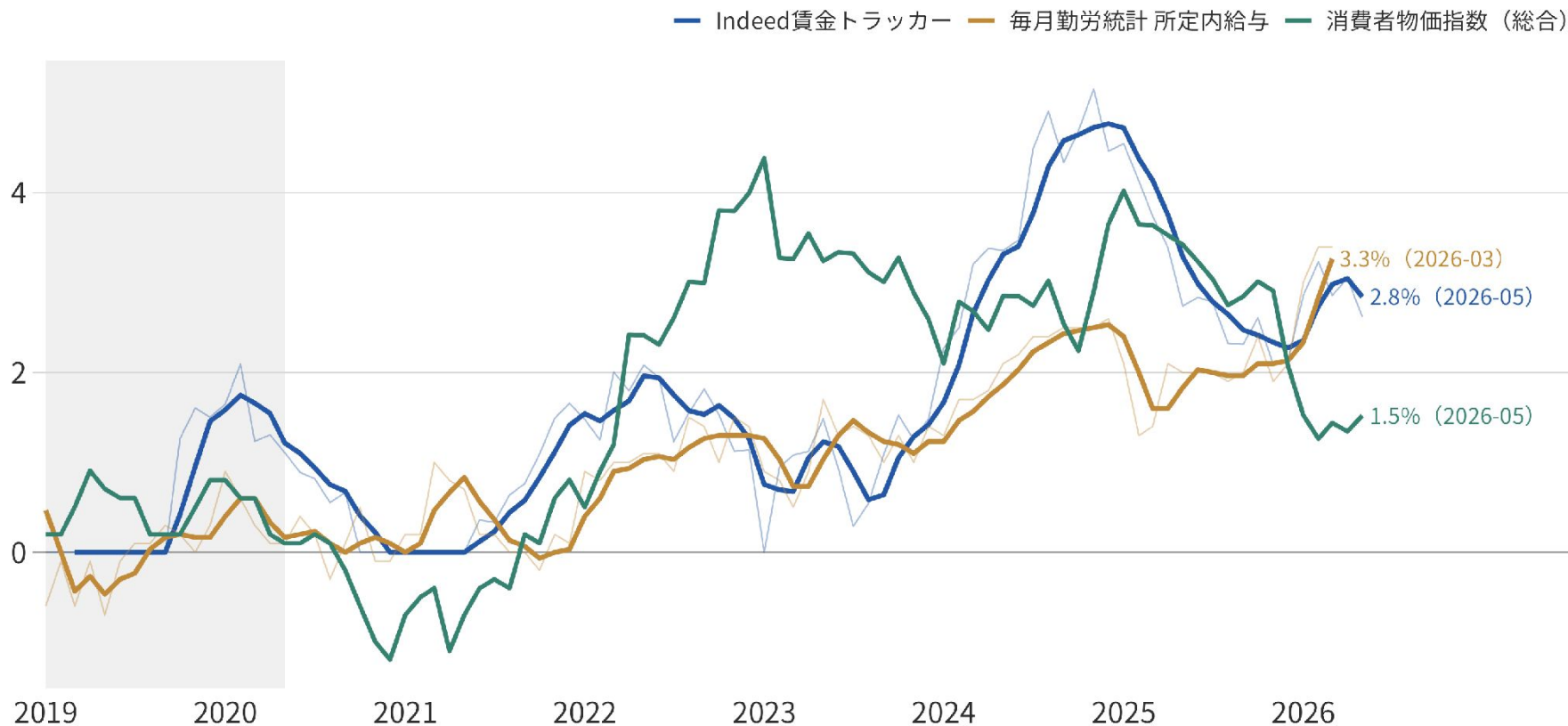
Indeed賃金トラッカー 前年比（左軸；細＝単月、太＝3か月移動平均）
vs 日銀 政策金利（右軸；破線＝本日決定の1.0%への利上げ）



出所：Indeed賃金トラッカー、BIS 中央銀行政策金利（日本）、Macrobond

賃金上昇率 vs 消費者物価上昇率

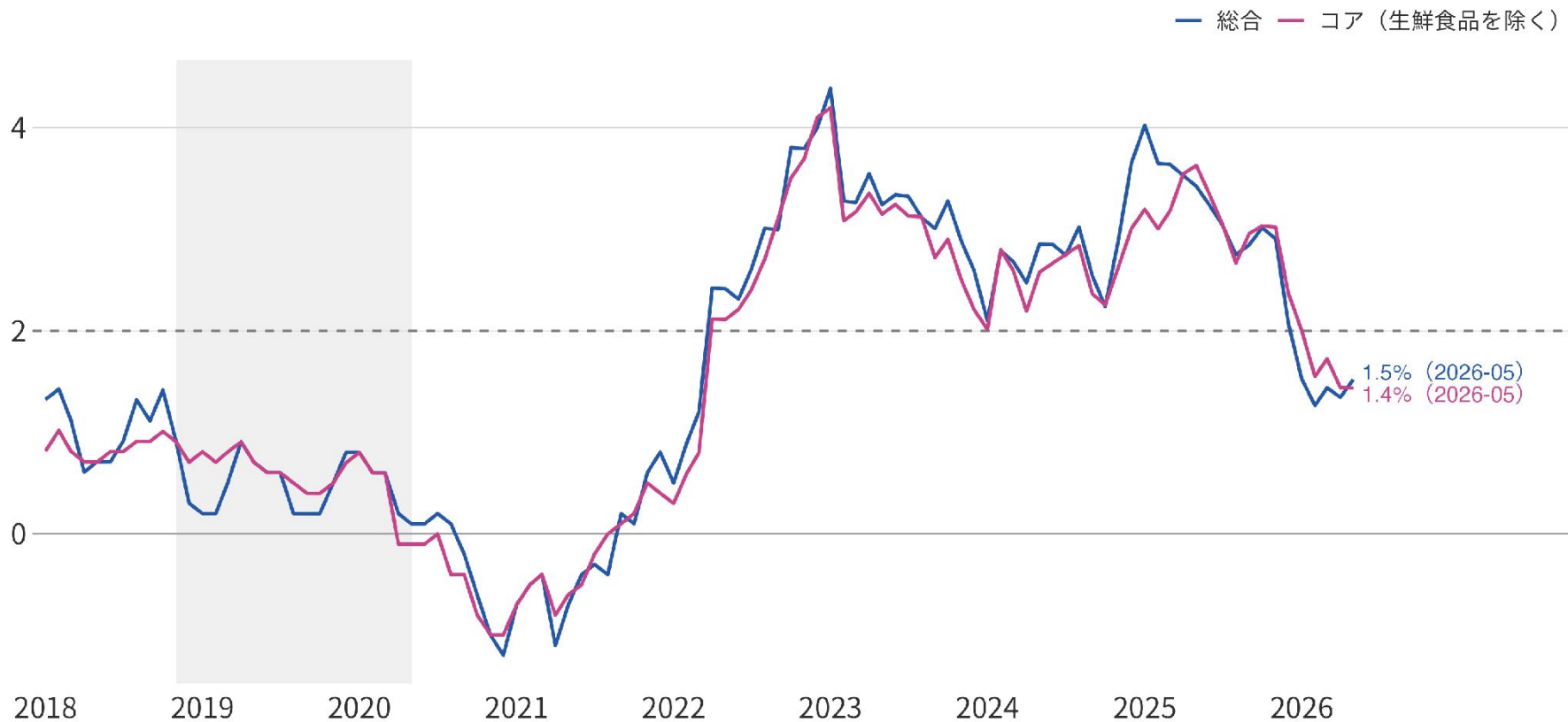
前年同月比 (%)。賃金は細線=単月・太線=3か月移動平均、CPIは総合



出所：Indeed 賃金トラッカー、厚生労働省 毎月勤労統計（所定内給与）、総務省 消費者物価指数（2020年基準）

消費者物価上昇率

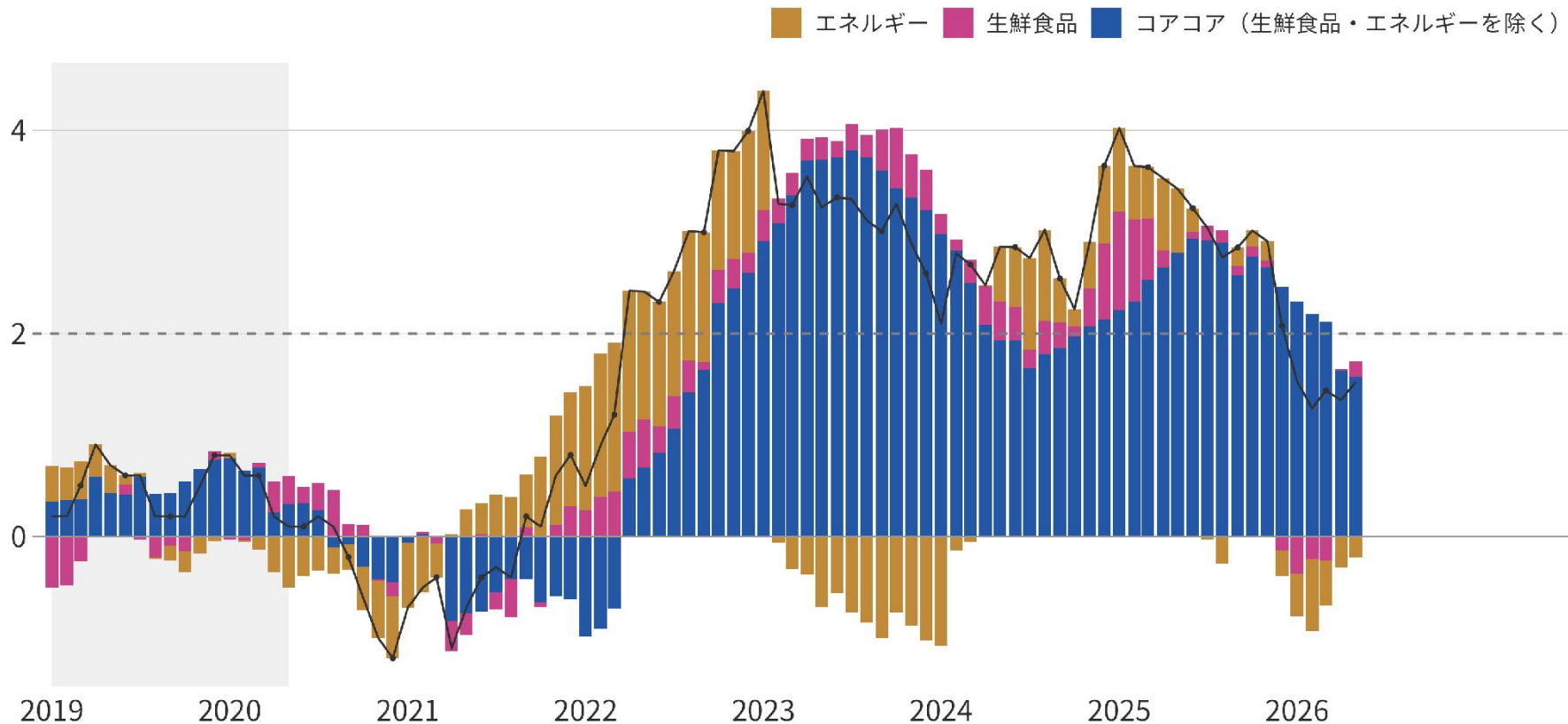
前年同月比 (%)。総合とコア (生鮮食品を除く)。日銀の物価目標2% (破線)



出所：総務省 消費者物価指数 (2020年基準)

消費者物価上昇率への寄与度分解

総合（前年同月比）への寄与度（%ポイント）。日銀の物価目標2%（破線）、細線＝総合の前年同月比



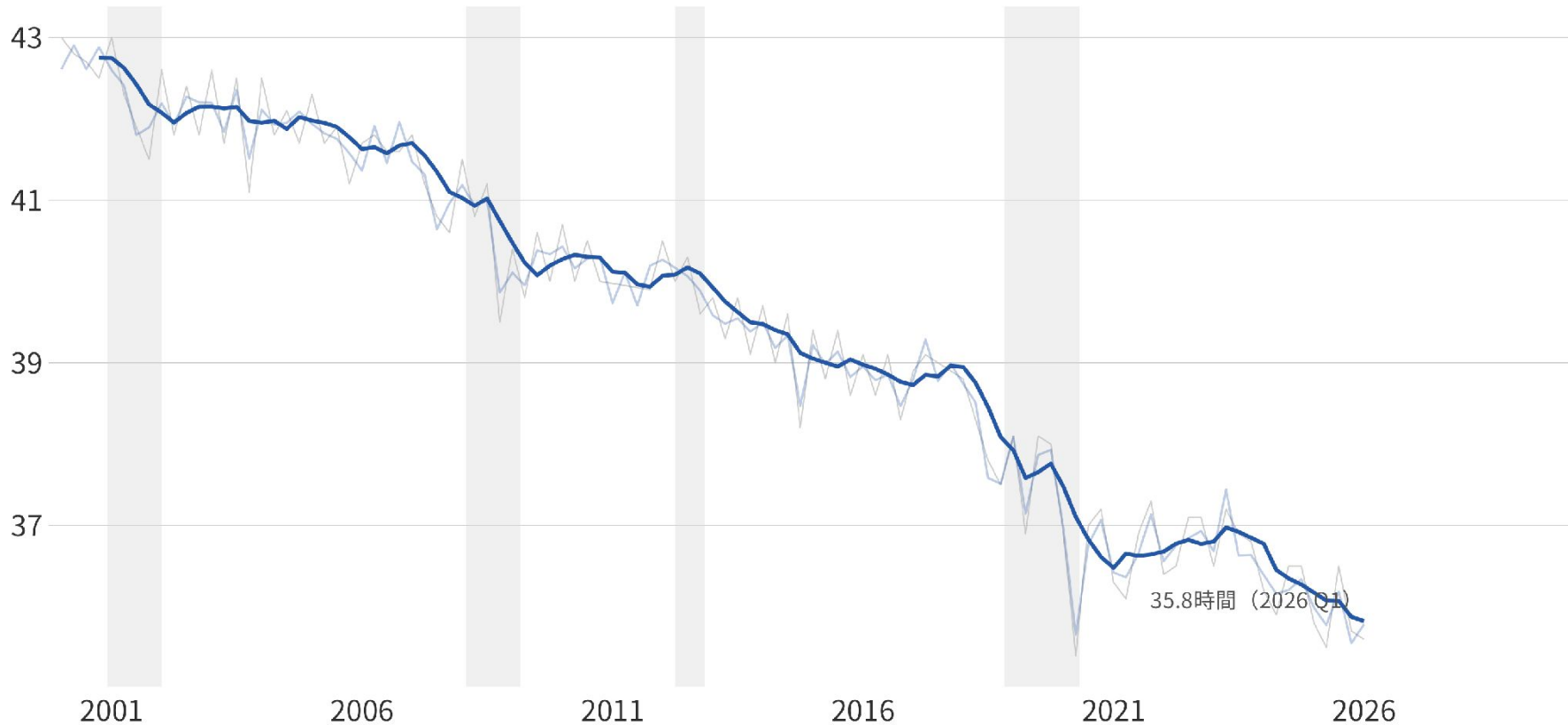
出所：総務省 消費者物価指数（2020年基準）、寄与度は指数×2020年基準ウエイトで筆者試算

04

労働時間と生産性

就業者1人当たり 週間労働時間

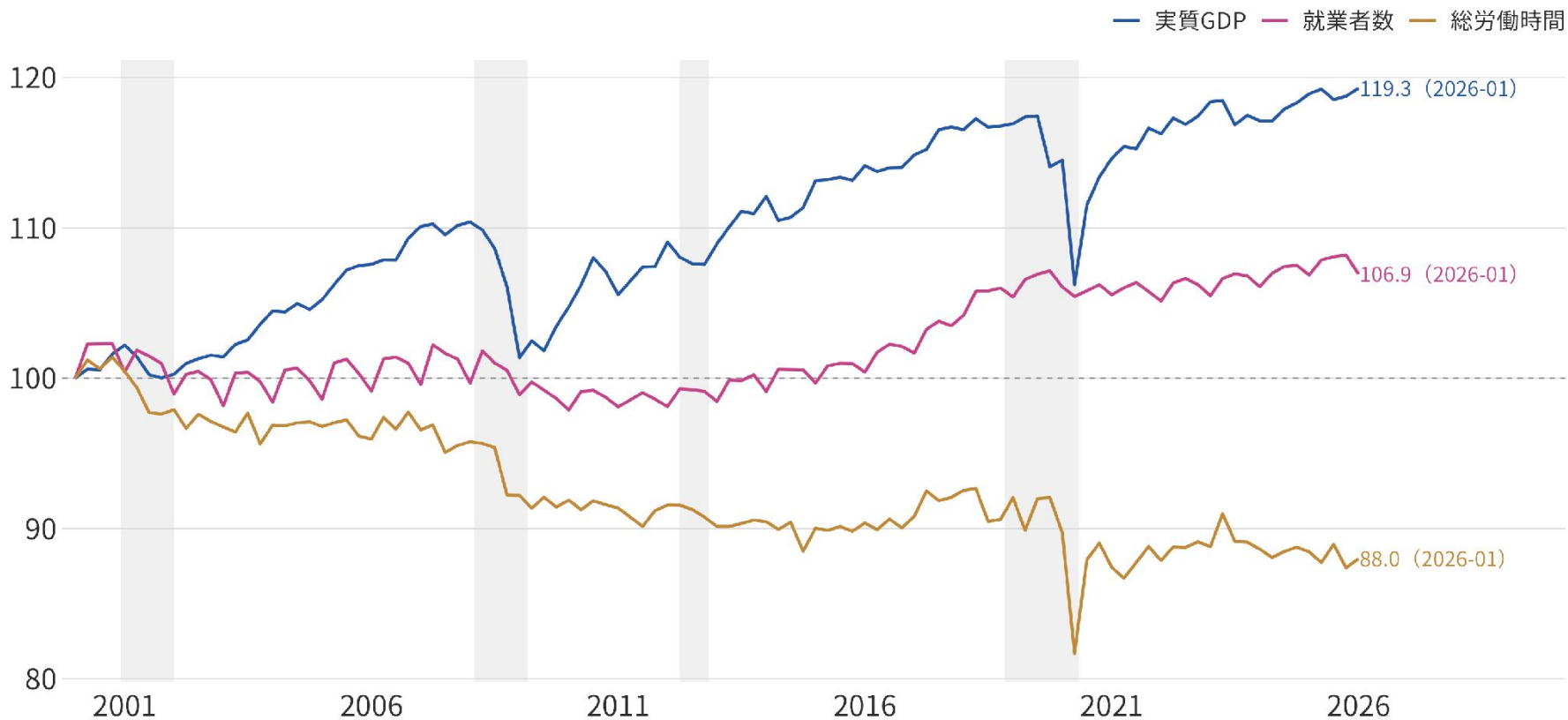
労働力調査 全就業者（季調値、4期移動平均）。薄い灰色＝原数値。四半期 2000Q1～



出所：総務省 労働力調査（季節調整は筆者）

産出は就業者数・総労働時間のいずれをも上回って増加

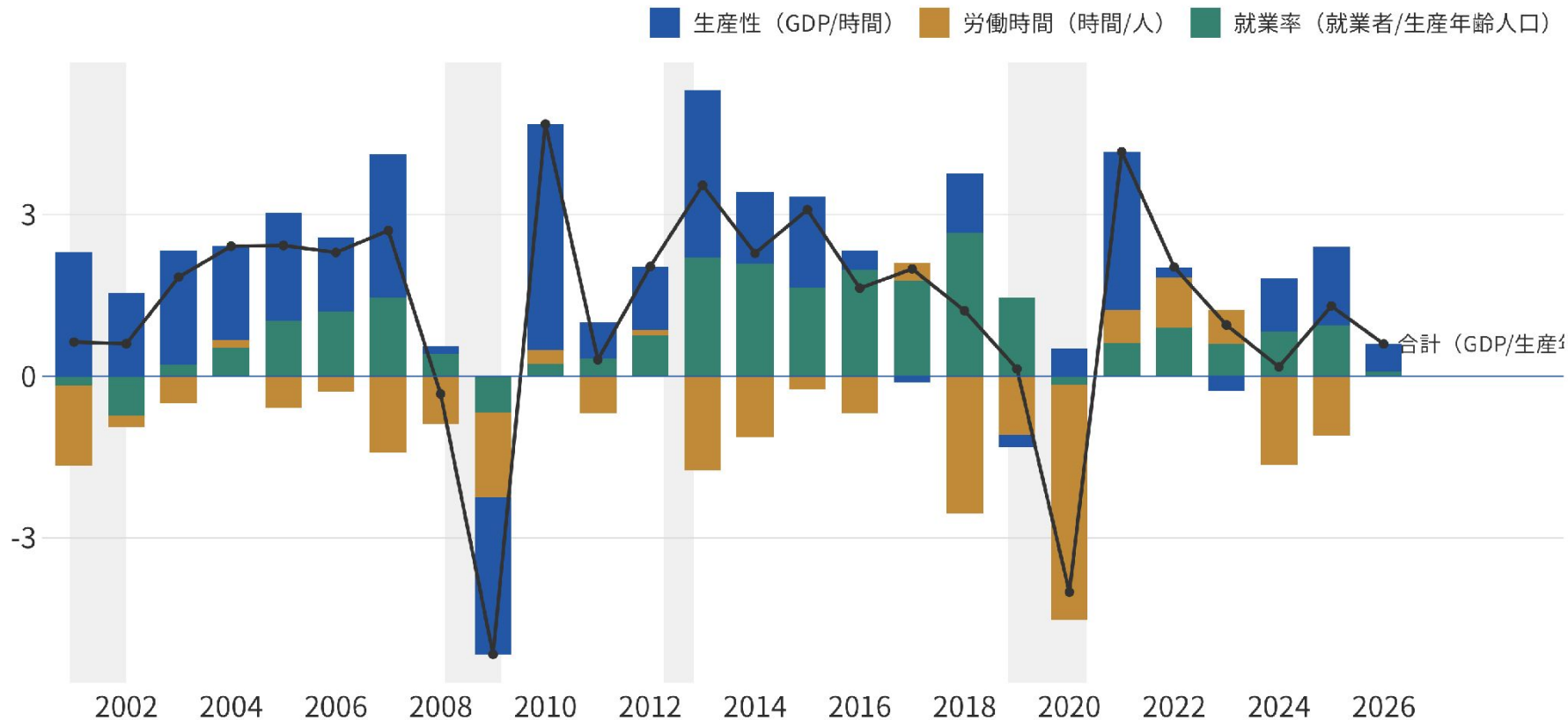
実質GDP（季調、2020連鎖）、労働力調査 就業者数・総週間労働時間（季調）、四半期、2000Q1=100



出所：内閣府 国民経済計算、総務省 労働力調査

生産年齢人口1人あたりGDP：成長要因分解

$\Delta \ln(\text{GDP}/\text{WA}) = \Delta \ln(\text{GDP}/\text{時間}) + \Delta \ln(\text{時間}/\text{人}) + \Delta \ln(\text{就業率})$ （生産性＋労働時間＋就業率）、年次



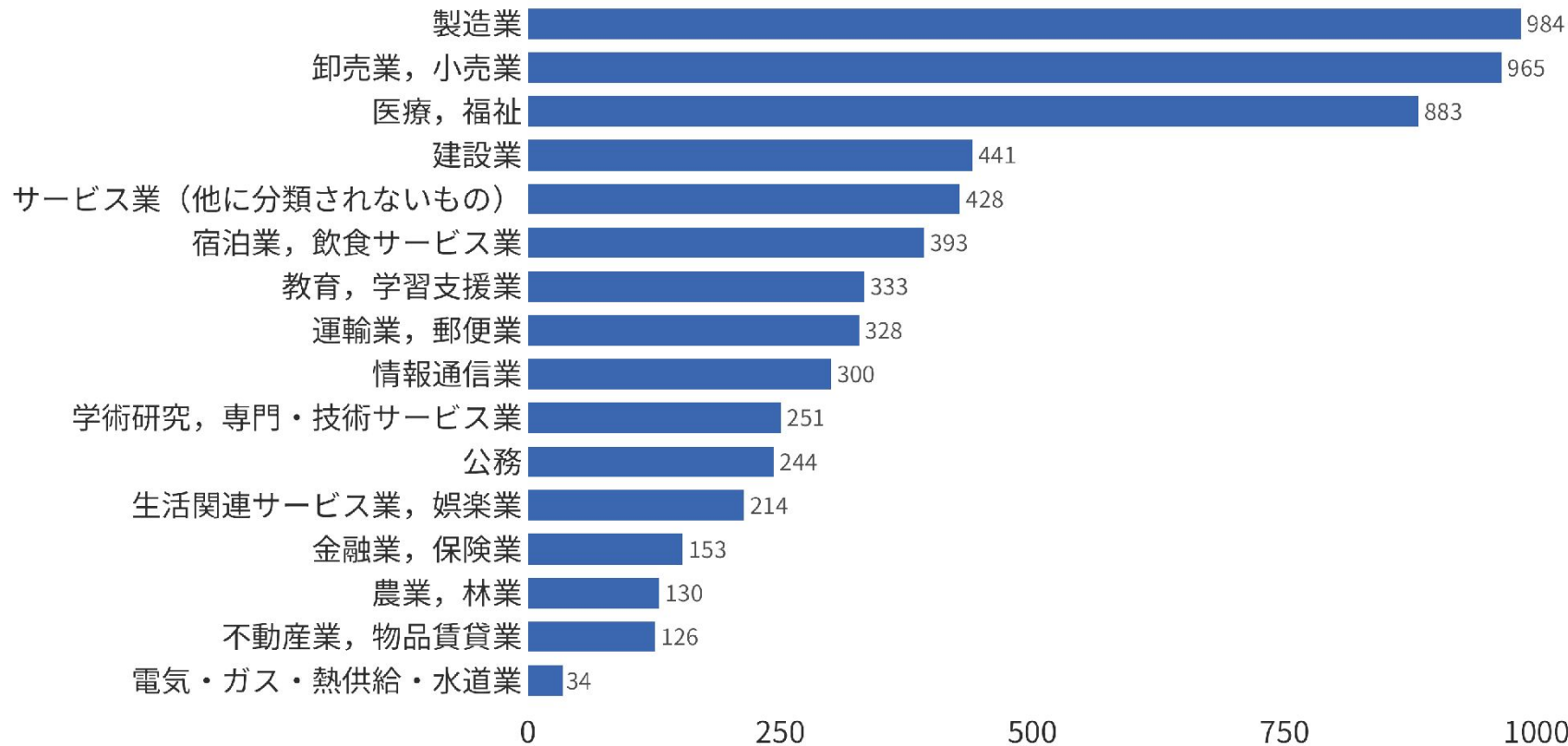
出所：内閣府 国民経済計算、総務省 労働力調査・人口推計。算出方法はFernández-Villaverde et al. (2025)に基づく。

05

産業・労働分配率

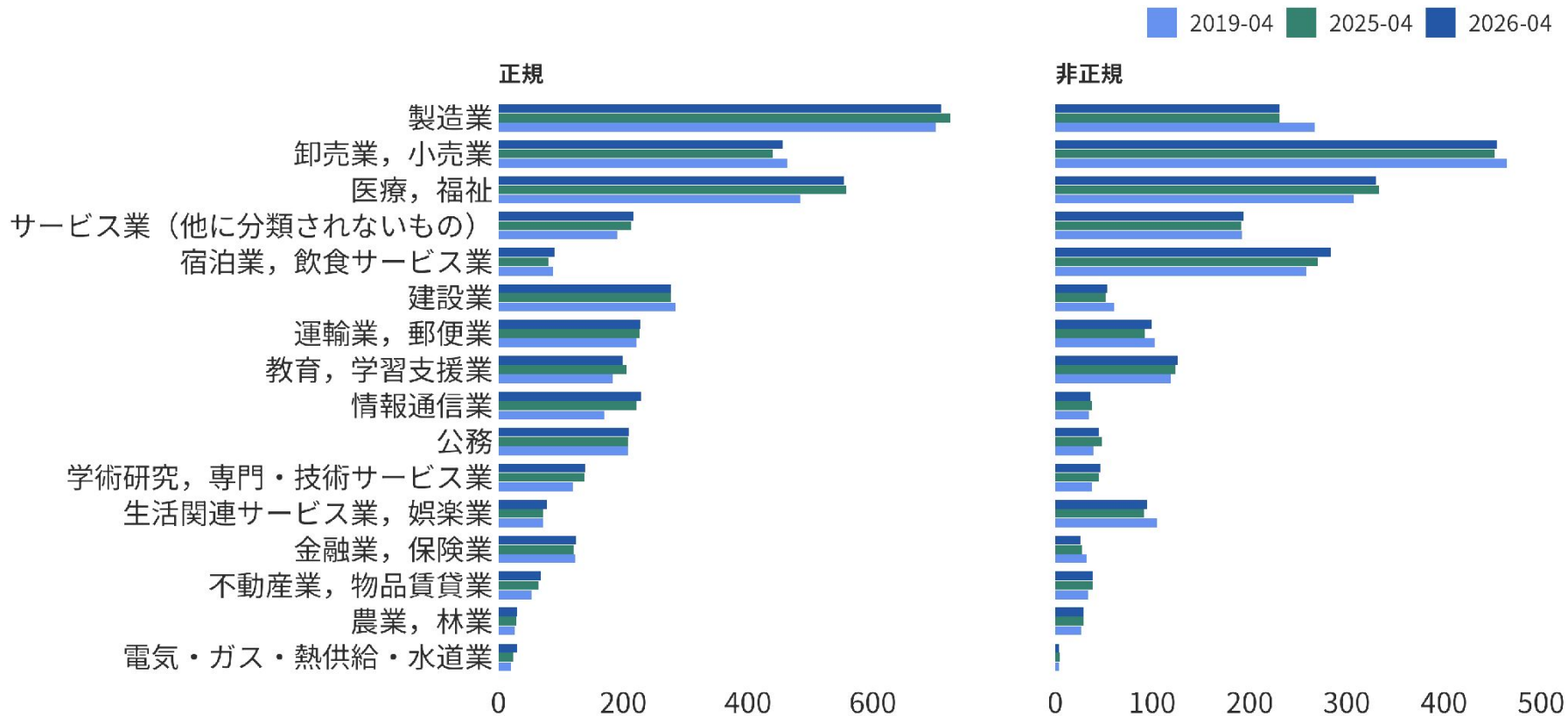
産業別就業者数（直近12か月平均）

産業別就業者数（季節調整値）、直近12か月平均（2025-05-2026-04）、労働力調査、単位：万人



多くの産業で2019年以降に非正規雇用が増加

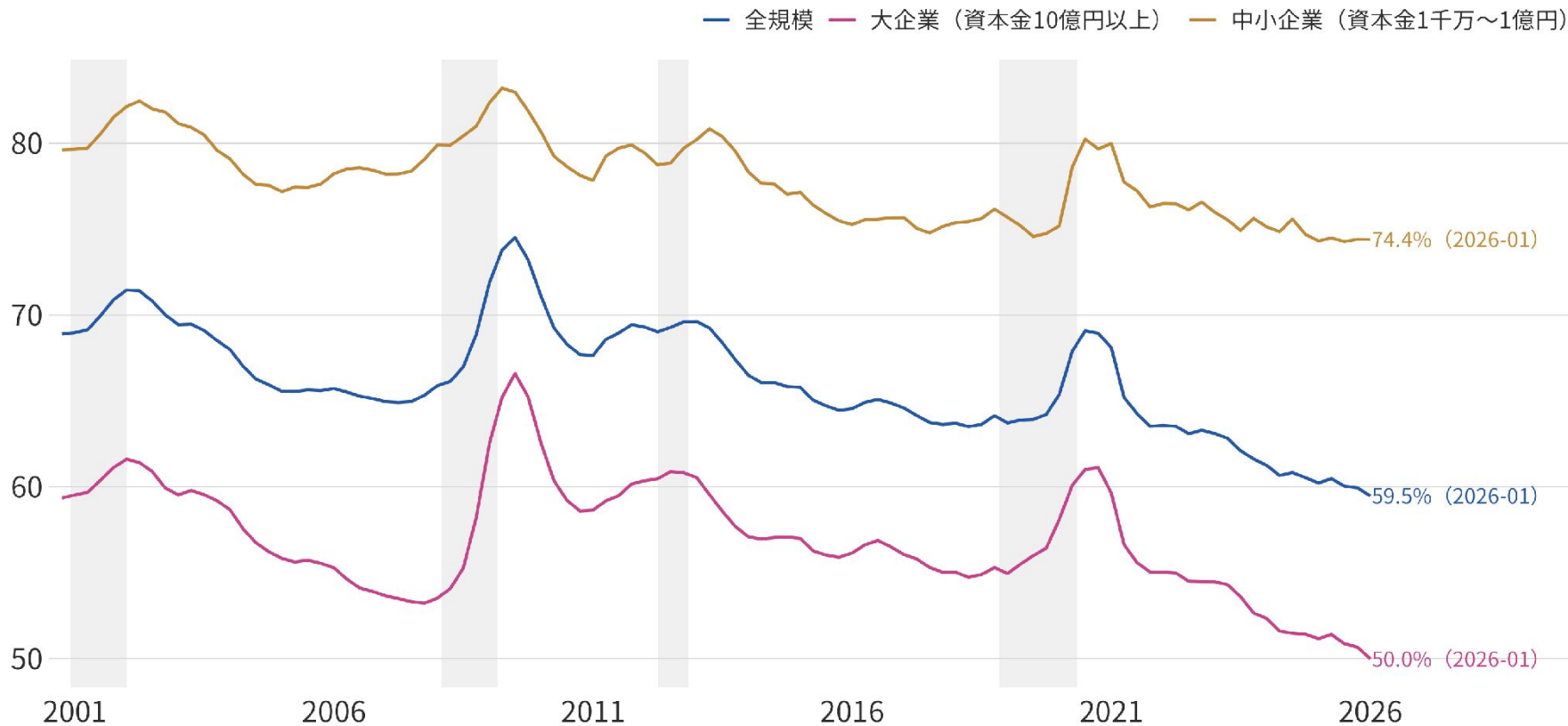
産業・雇用形態別の雇用者数（2019-04・2025-04・2026-04を末月とする3か月平均）、労働力調査、月次、単位：万人



出所：総務省 労働力調査

企業規模別 労働分配率

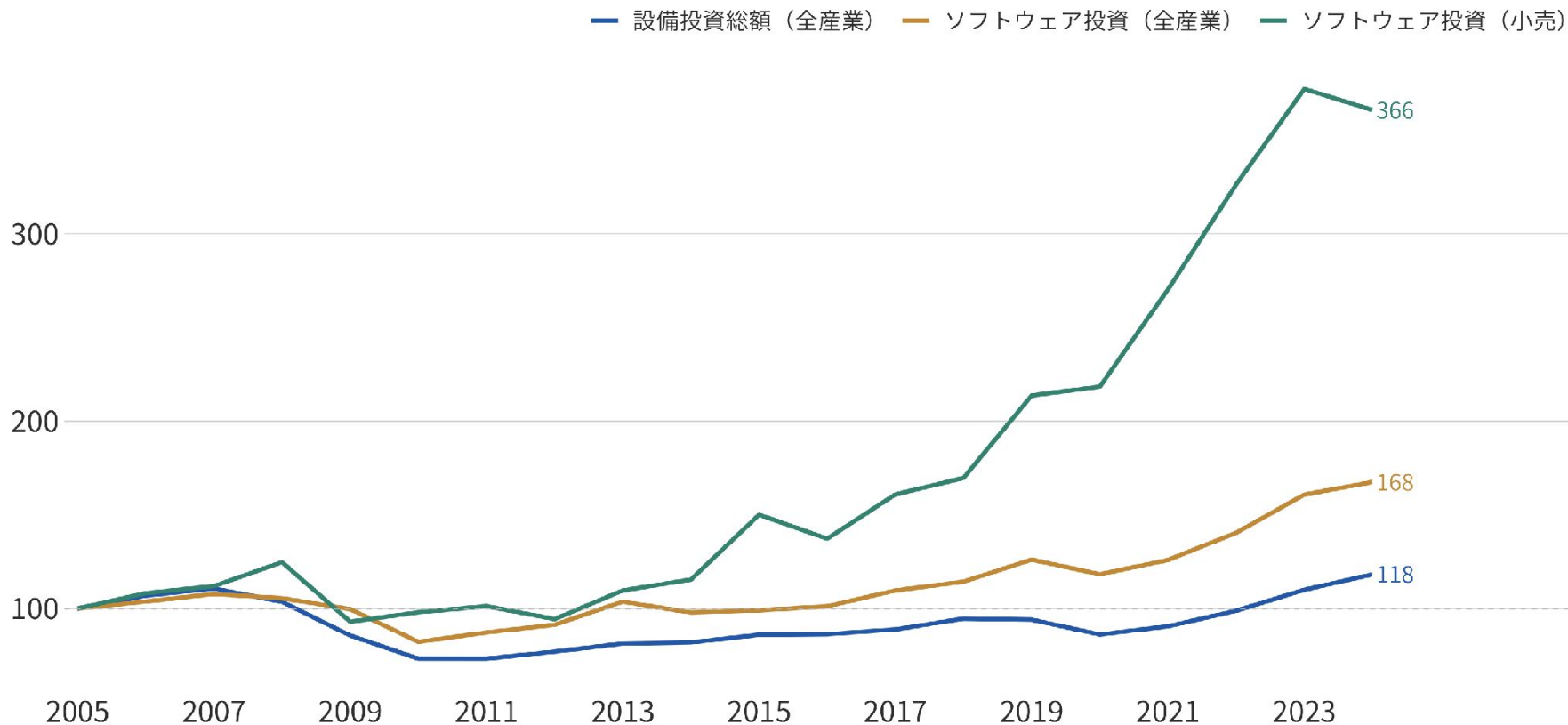
人件費 / 付加価値（4期移動平均、金融・保険業を除く）



出所：財務省 法人企業統計調査

ソフトウェア投資は設備投資全体を大きく上回って増加

短観の名目投資額、FY2005 = 100。設備投資総額とソフトウェア投資（全産業・小売）、年度



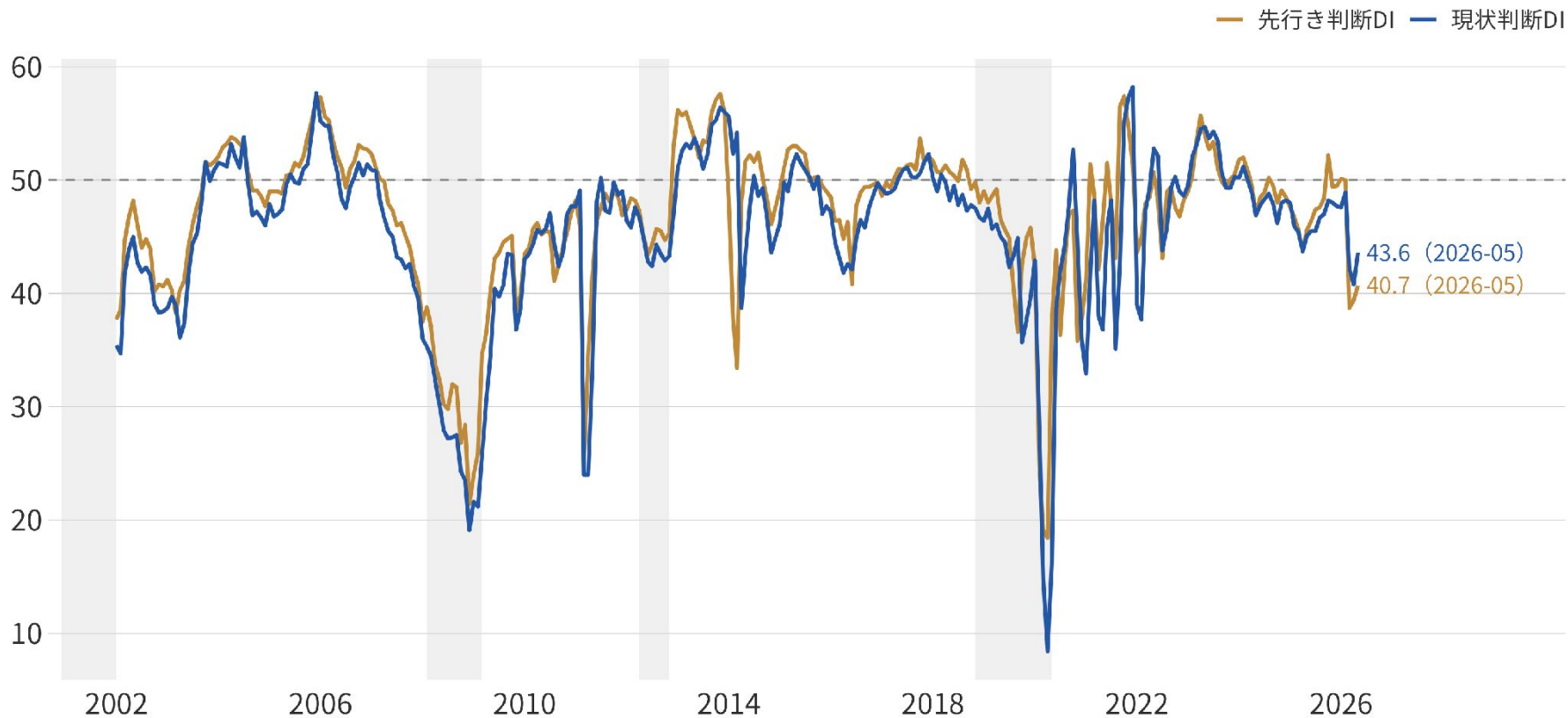
出所：日本銀行 短観

06

マクロリスクと金融環境

景況感はコロナ後のピークから軟化

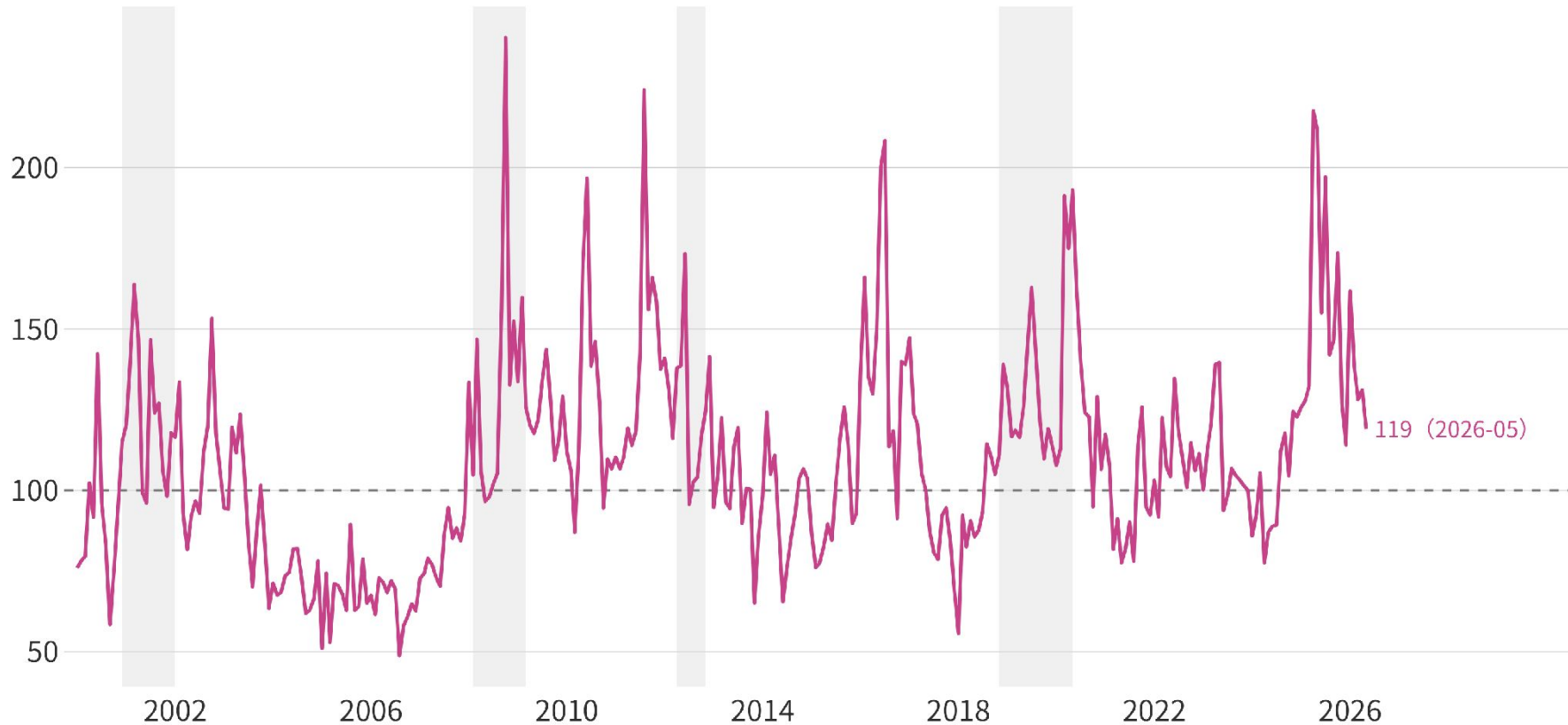
景気ウォッチャー調査 DI、季節調整値（全分野）。50＝横ばい



出所：内閣府（ESRI）景気ウォッチャー調査（季節調整値）

政策不確実性は歴史的平均を上回って高止まり

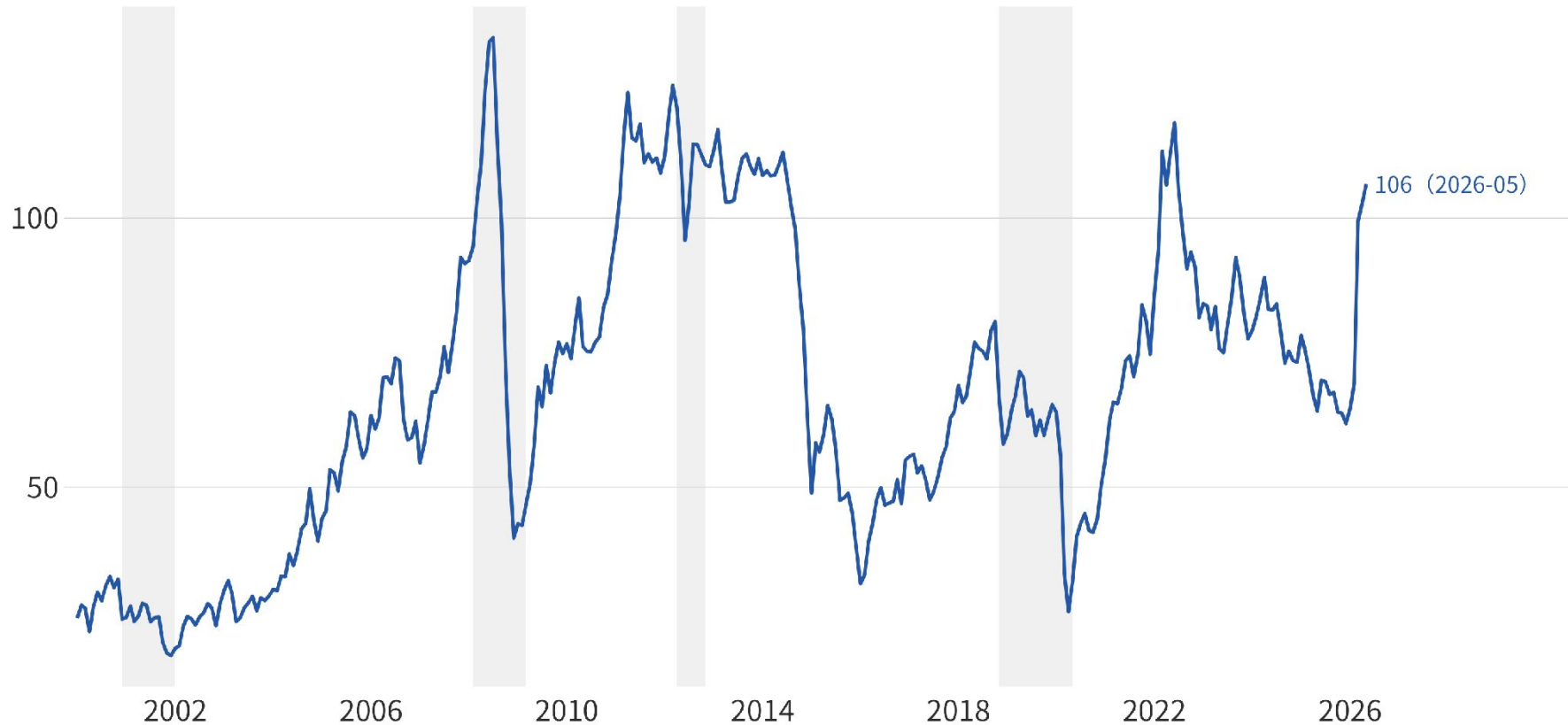
日本の経済政策不確実性指数（報道ベース）、月次（100 = 1987-2015年平均）



出所：Economic Policy Uncertainty (Baker, Bloom & Davis)

原油価格は資源輸入国・日本にとって継続的なリスク

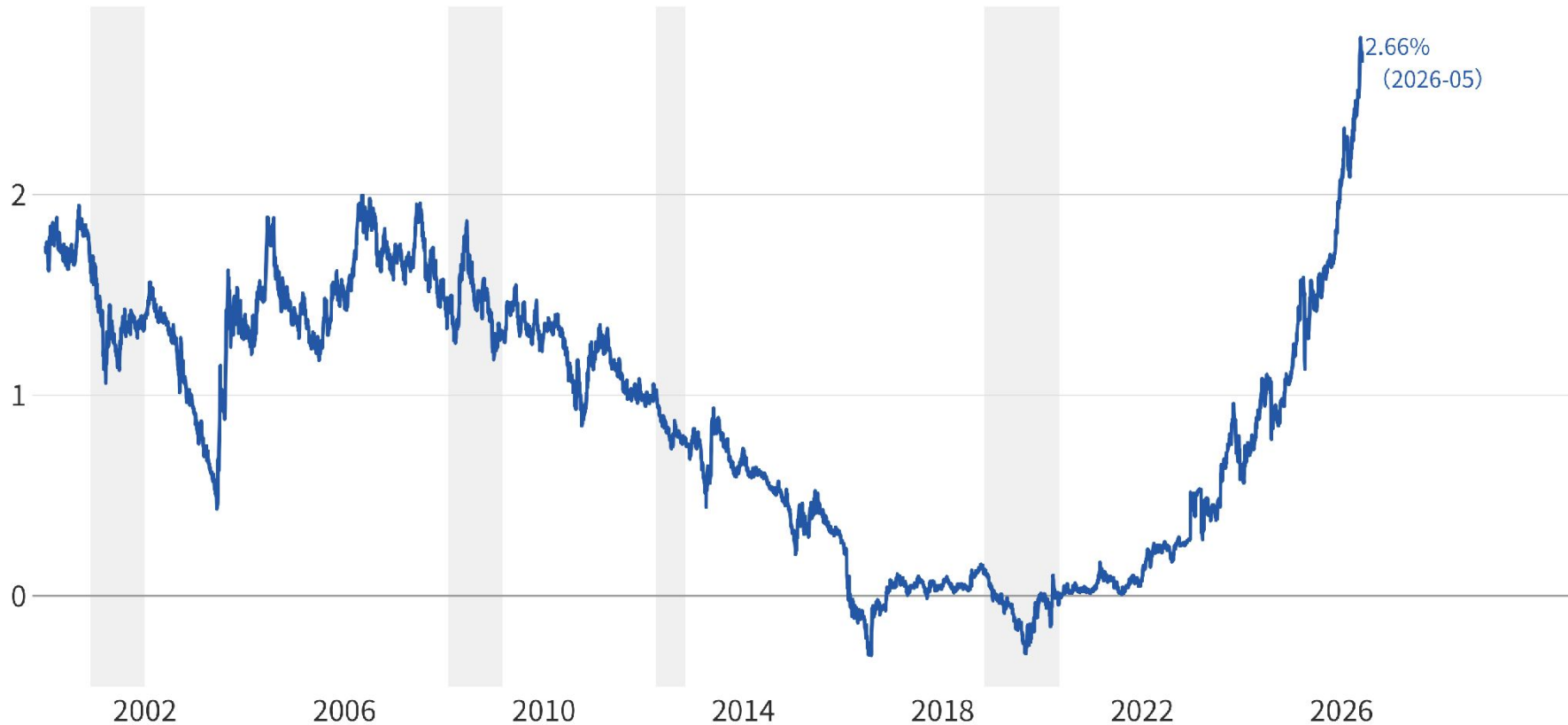
ブレント原油スポット価格の月平均、米ドル/バレル



出所：FRED 原油価格（ブレント、月次）

長期の借入コストが急上昇

10年物国債（JGB）利回り、日次



出所：財務省 国債金利情報（10年）、Macrobond